

## 令和元年度第1回湖東圏域地域医療構想調整会議 次第

日 時： 令和元年8月7日(水) 13:30～15:30

場 所： 湖東健康福祉事務所2階会議室

### 1 開 会

### 2 あいさつ

### 3 委員紹介

### 4 議 事

- (1) 湖東圏域地域医療構想調整会議の進め方について
- (2) 湖東圏域における病床機能の分化・連携について
- (3) 令和2年度地域医療介護総合確保基金(医療分)にかかる事業提案について
- (4) 地域医療構想の取り組み啓発について
- (5) その他

#### 【配布資料】

次第 委員名簿 設置要領

資料1-1 地域医療構想の進捗について

資料1-2 外来医療計画について

資料2 湖東圏域地域医療構想調整会議について

資料3 病床機能報告からみた湖東圏域の病床の変化

資料4-1 滋賀県保健医療計画における小児救急医療体制について

資料4-2 滋賀県保健医療計画における周産期医療体制について

資料5-1 地域医療介護総合確保基金事業の提案について

資料5-2 精神科医療の現状について

資料6 関係者や地域住民への啓発について

# 湖東圏地域医療構想調整会議 委員名簿

令和元年度

(敬称略)

	機 関・団 体 名	職 名	氏 名	備考
1	彦根医師会	会 長	奥野 質夫	
2	彦根歯科医師会	会 長	田井中 聡	
3	湖東歯科医師会	愛荘地区代表	北村 圭司	
4	彦根薬剤師会	代理(副会長)	池田富美子	
5	滋賀県看護協会5地区支部	代 表	橋本 逸子	
6	彦根市立病院	病院長	金子 隆昭	
7	彦根中央病院	代理(事務長)	小倉弘一郎	
8	友仁山崎病院	院 長	高橋 雅士	
9	豊郷病院	院 長	横田 徹	
10	平和堂健康保険組合	常務理事	西村 浩之	
11	全国健康保険協会滋賀支部	保健グループ長	潟渕 洋生	
12	彦根愛知犬上介護保険事業者協議会	会 長	鈴木 則成	
13	彦根愛知犬上介護支援専門員連絡協議会	会 長	辻 広美	
14	訪問看護ステーション連絡協議会	支部長	柴田 恵子	
15	彦根医療福祉推進センター	次 長	谷村 雅史	
16	彦根市 福祉保健部	部 長	田中 一郎	
17	愛荘町	政策監	岡部 得晴	
18	豊郷町 医療保険課	課 長	西山 喜代史	
19	甲良町 保健福祉課	課 長	米田 志保子	
20	多賀町 福祉保健課	課 長	林 優子	
21	滋賀県彦根保健所	所 長	切手 俊弘	

事務局	彦根保健所	次 長	堀出 裕明
	彦根保健所 総務係	副参事	山田 明美
	彦根保健所 生活保護係	副参事	東野 圭吾
	彦根保健所 生活衛生係	副参事	島田 伊久三
	彦根保健所 地域保健福祉係	主 査	村井 あき
	彦根保健所 医療福祉連携係	副参事	佐谷 裕子
	彦根保健所 医療福祉連携係	主 査	奥村 佳代
	滋賀県医療政策課	主任主事	村岡 佑哉

## 滋賀県地域医療構想調整会議設置要綱

### (設置)

第1条 医療法第30条の14に基づき、滋賀県保健医療計画の一部として位置づけられる地域医療構想の実現に向けた取組を協議するため、構想区域ごとに別表に掲げる地域医療構想調整会議（以下、「調整会議」という。）を設置する。

### (協議事項)

第2条 調整会議は、次の事項について協議する。

- (1) 病床の機能分化・連携に向けた取組に関する事
- (2) 目指すべき医療提供体制を実現する施策に関する事
- (3) その他、調整会議が必要と認める事項に関する事

### (組織)

第3条 調整会議の委員は、次の各号に掲げる関係者のうちから、各保健所長が選任する。

- (1) 医療関係機関・団体
- (2) 医療保険者
- (3) 市町
- (4) その他、特に必要と認められる者

2 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

3 委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 必要に応じて調整会議にオブザーバーを置くことができる。

### (議長及び副議長)

第4条 調整会議に、議長を置く。また、必要に応じて副議長を置くことができる。

2 議長は委員の互選により選出する。副議長を置く場合は、委員の中より議長が指名する者を充てる。

3 議長は、調整会議を代表し、調整会議の会務を総理する。

### (会議)

第5条 調整会議は、議長が招集する。

2 議長が必要と認めるときは、調整会議に委員以外の者の出席を求め、意見を聴取することができる。

### (庶務)

第7条 調整会議の庶務は、別表に掲げる保健所において処理する。ただし、大津区域については、滋賀県健康医療福祉部医療政策課および大津市保健所による共同処理とする。

### (補足)

第8条 この要綱に定めるもののほか、調整会議の運営に関し必要な事項は別に定める。

附 則

この要綱は、平成28年7月6日から施行する。

附 則

この要綱は、平成29年6月5日から施行する。

別 表

区 域	会 議 名	庶 務
大 津	大津圏域地域医療構想調整会議	大津市保健所・滋賀県健康医療福祉部医療政策課
湖 南	湖南圏域地域医療構想調整会議	草津保健所
甲 賀	甲賀圏域地域医療構想調整会議	甲賀保健所
東近江	東近江圏域地域医療構想調整会議	東近江保健所
湖 東	湖東圏域地域医療構想調整会議	彦根保健所
湖 北	湖北圏域地域医療構想調整会議	長浜保健所
湖 西	湖西圏域地域医療構想調整会議	高島保健所

# 地域医療構想の進捗について

# 地域医療構想検討の背景について

2025年：団塊の世代が75歳以上《国民の3人に1人が65歳以上・5人に1人が75歳以上》

〔高齢化の進展に伴う変化〕

- ・慢性疾患、複数の疾病を抱える患者が増える
- ・手術だけでなく、その後のリハビリも必要となる患者が増える
- ・自宅で暮らしながら医療を受ける患者が増える



医療介護総合確保推進法（H26）による医療介護改革の主な内容

- 新たな基金の創設と医療・介護の連携強化
- 地域医療構想の策定（医療機関の医療機能の分化・連携）**
- 地域包括ケアシステムの構築

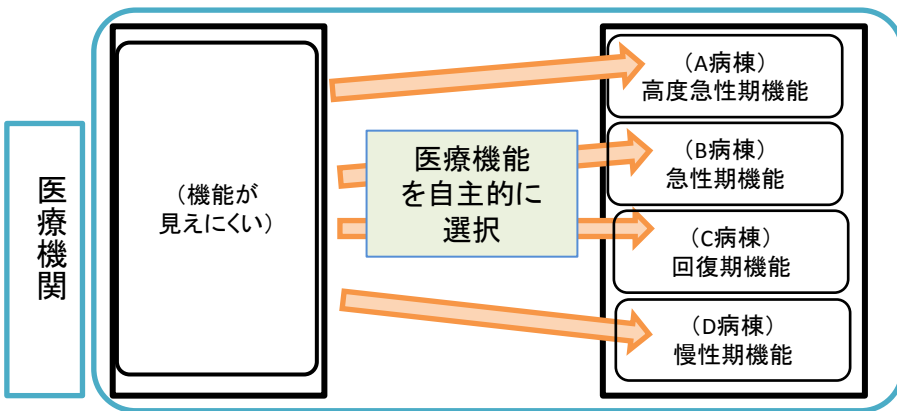


改革の方向性

- ① 高度急性期から在宅医療まで、患者の状態に応じた適切な医療を、地域において効果的かつ効率的に提供する体制を整備する
- ② 患者ができるだけ早く社会に復帰し、地域で継続して生活を送れるようにする

# 地域医療構想について

- 「医療介護総合確保推進法」により、都道府県が「地域医療構想」を策定。  
(平成28年度末までに全都道府県で策定済み)  
※ 「地域医療構想」は、二次医療圏単位での策定が原則。
- 「地域医療構想」は、2025年に向け、病床の機能分化・連携を進めるために、医療機能ごとに2025年の医療需要と病床の必要量を推計し、定めるもの。
- 都道府県が「地域医療構想」の策定を開始するに当たり、厚生労働省で推計方法を含む「ガイドライン」を作成。平成27年3月に発出。



医療機能の現状と今後の方向を報告



都道府県

医療機能の報告等を活用し、「地域医療構想」を策定し、更なる機能分化を推進

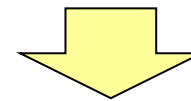
(「地域医療構想」の内容)

## 1. 2025年の医療需要と病床の必要量

- ・高度急性期・急性期・回復期・慢性期の4機能ごとに医療需要と必要病床数を推計
- ・在宅医療等の医療需要を推計
- ・都道府県内の構想区域(二次医療圏が基本)単位で推計

## 2. 目指すべき医療提供体制を実現するための施策

例) 医療機能の分化・連携を進めるための施設設備、在宅医療等の充実、医療従事者の確保・養成等



○ 機能分化・連携については、「地域医療構想調整会議」で議論・調整。

# 医療需要と必要病床数の推計イメージ

現在の  
医療需要

2025年の  
医療需要

2025年の  
必要病床数



供給調整・病床稼働率

レセプトデータ等

入院受療率

高度急性期 〇〇〇〇人/日
急性期 〇〇〇〇人/日
回復期 〇〇〇〇人/日
慢性期 〇〇〇〇人/日

推計人口×患者数

目標入院受療率  
(地域差解消)

高度急性期 〇〇〇〇人/日
急性期 〇〇〇〇人/日
回復期 〇〇〇〇人/日
慢性期 〇〇〇〇人/日

構想区域間等の患者流入の調整

75%  
78%  
90%  
98%

高度急性期 〇〇〇〇床
急性期 〇〇〇〇床
回復期 〇〇〇〇床
慢性期 〇〇〇〇床

在宅医療等  
〇〇〇〇人

在宅医療等  
〇〇〇〇人

在宅医療等  
〇〇〇〇人



# 【滋賀県地域医療構想の概要】

# 基本事項

## 【構想の目的】

- 地域の医療需要(患者数)の将来推計等をデータに基づき明らかにする
- 構想区域ごとの各医療機能がどれだけ必要であるかについて検討する
- 地域にふさわしいバランスのとれた医療機能の分化と連携を推進する
- 住み慣れた地域で安心して暮らせる地域包括ケアシステムを構築する

## 【構想の位置付け】

- 医療法第30条の4の規定に基づく医療計画  
（「滋賀県保健医療計画」）の一部
- 平成37年（2025年）に向けての取組を推進
- 「レイカディア滋賀高齢者福祉プラン」などの  
関連計画との整合を図り、一体的な事業を推進

## 【構想区域】

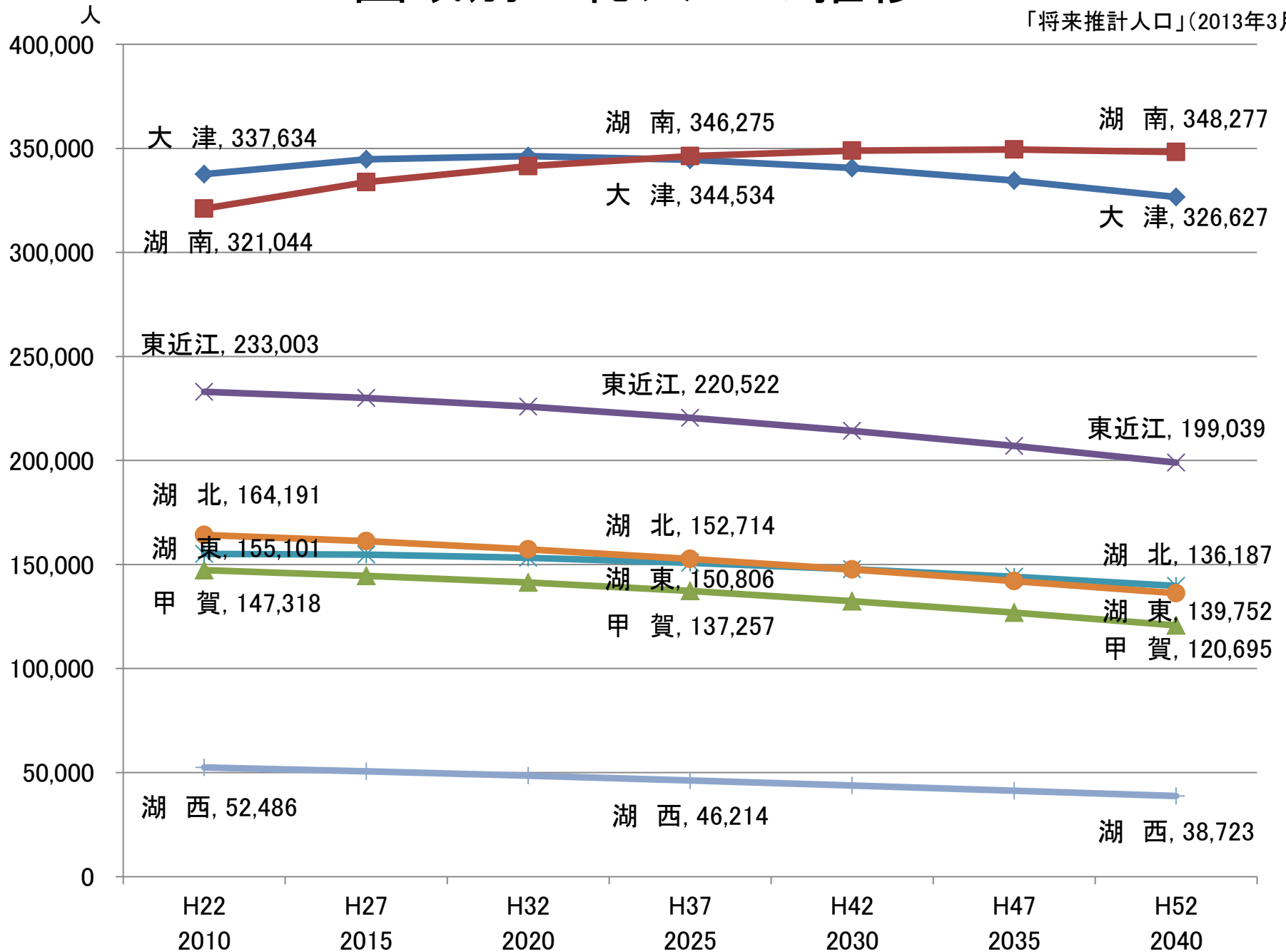
- 滋賀県保健医療計画で定める二次保健医療圏と  
同様に、7構想区域を設定

## 【構想区域】



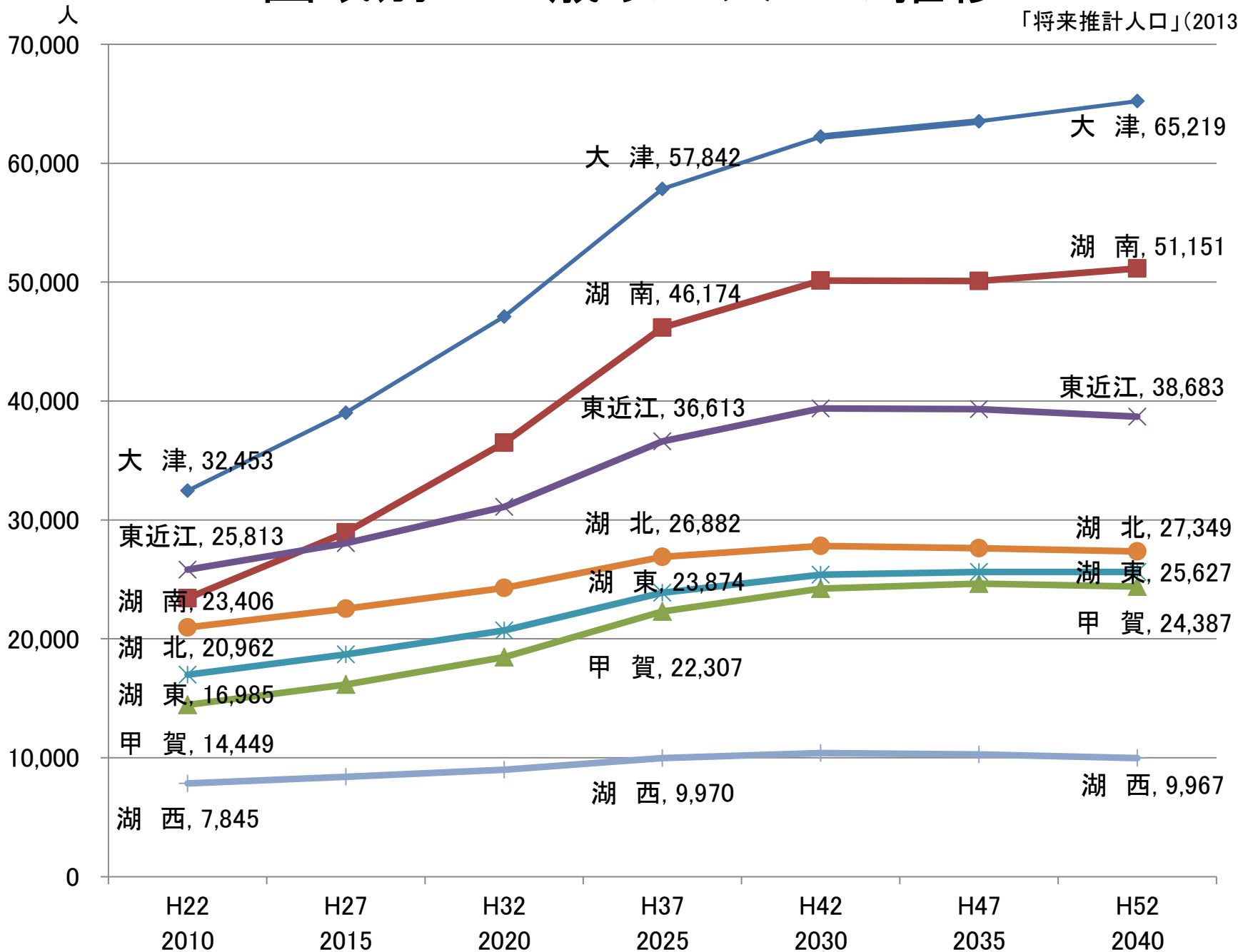
# 圏域別 総人口の推移

国立社会保障・人口問題研究所  
「将来推計人口」(2013年3月推計)



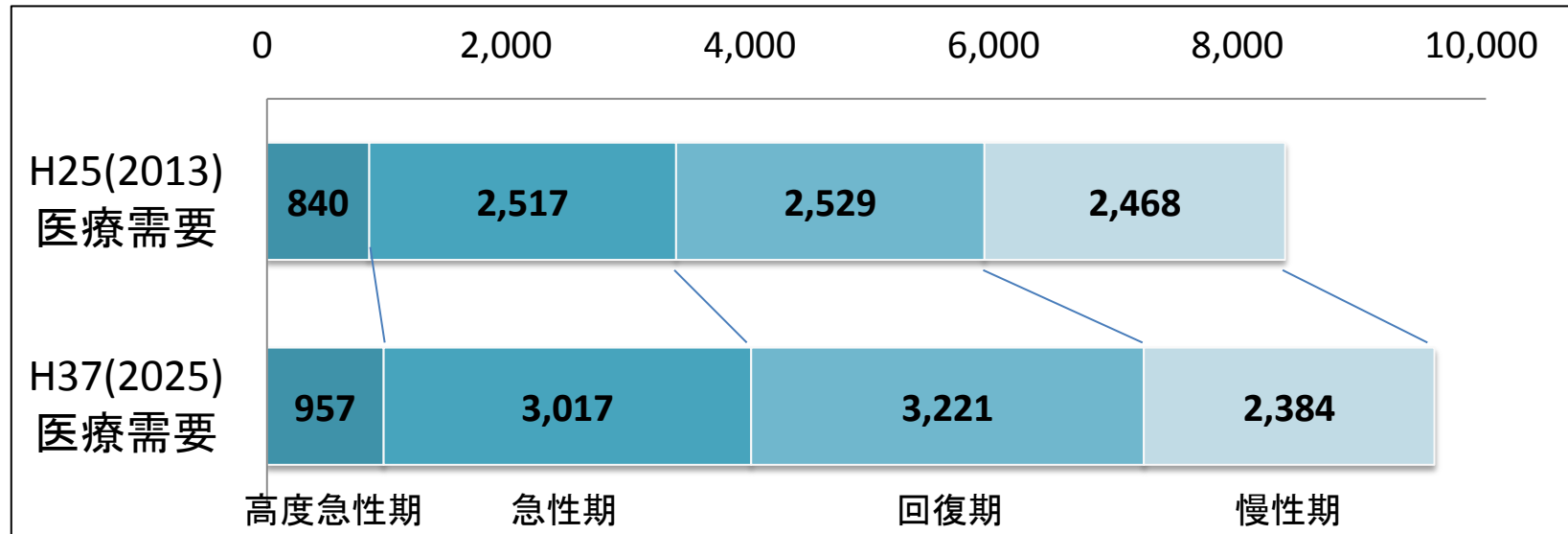
# 圏域別 75歳以上人口の推移

国立社会保障・人口問題研究所  
「将来推計人口」(2013年3月推計)



# 医療需要の推計 – 「地域医療構想策定支援ツール」より

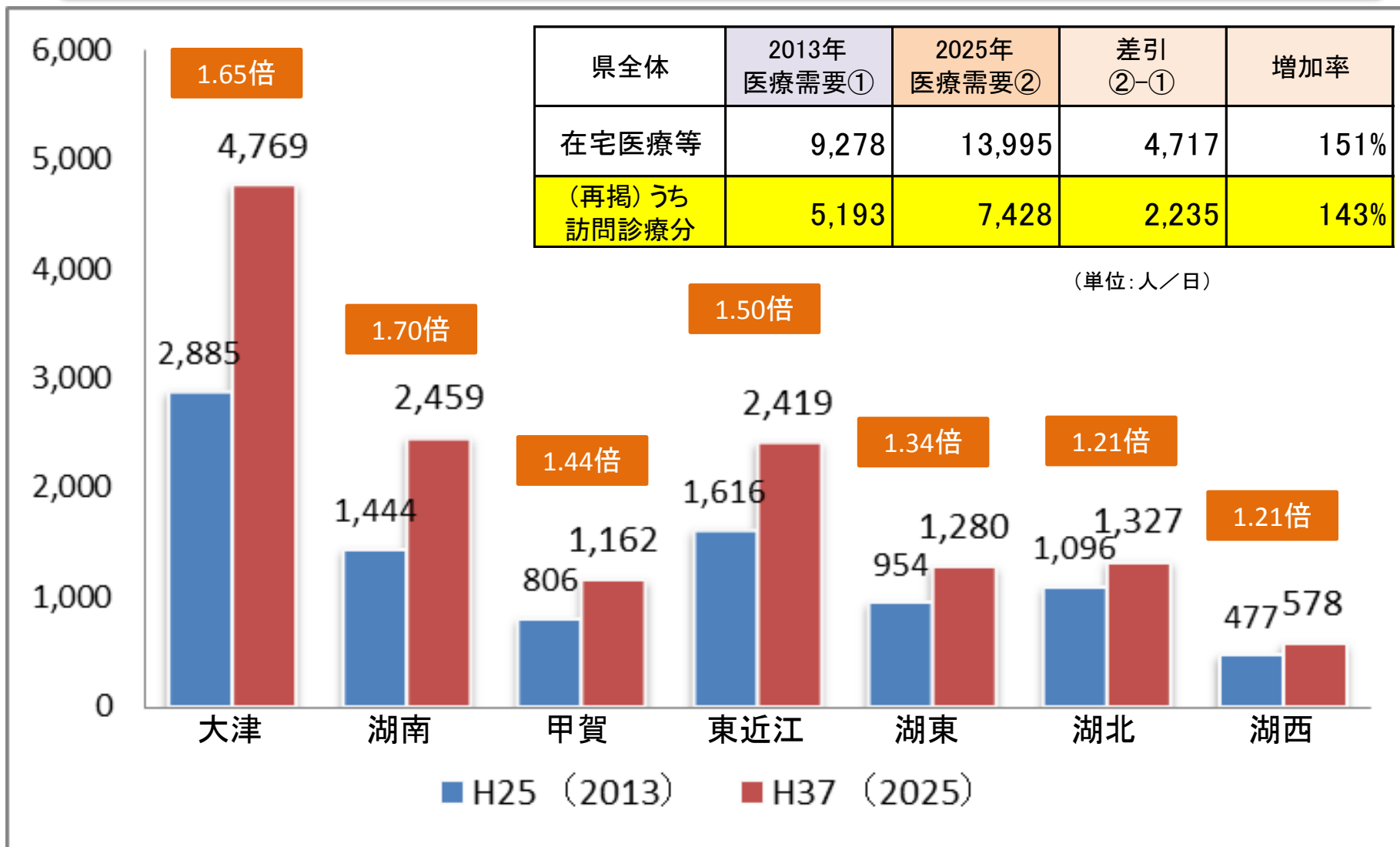
(単位:人/日)



県全体	2013年 医療需要① 〔医療機関〕	2025年 医療需要② 〔医療機関〕	差引 ②－①	増加率
高度急性期	840	957	117	114%
急性期	2,517	3,017	500	120%
回復期	2,529	3,221	692	127%
慢性期	2,468	2,384	-84	97%
計	8,354	9,579	1,225	115%

※医療機関所在地ベース・慢性期パターンBによる推計

# 在宅医療等 医療需要 – 「地域医療構想策定支援ツール」より



※在宅医療等の推計には以下の患者が含まれている

※医療機関所在地ベース・慢性期パターンBによる推計

- 訪問診療を受けている患者
- 老健施設の入所者
- 療養病床入院患者のうち、医療区分1の70%および地域差解消分
- 一般病床入院患者のうち、医療資源投入量(患者に対して行われた診療行為を診療報酬の出来高点数で換算した値)175点未満の患者

# 病床推計(2025年)

構想区域	医療機能区分	2025年医療供給	
		医療機関所在地ベースによる供給数 (人/日)	病床の必要量 (床)
大津	高度急性期	352	470
	急性期	905	1,161
	回復期	865	961
	慢性期	593	645
	合計	2,715	3,237
湖南	高度急性期	221	294
	急性期	779	999
	回復期	803	892
	慢性期	479	521
	合計	2,282	2,706
甲賀	高度急性期	58	78
	急性期	242	311
	回復期	403	448
	慢性期	314	341
	合計	1,017	1,178
東近江	高度急性期	131	174
	急性期	378	485
	回復期	496	551
	慢性期	572	622
	合計	1,577	1,832

構想区域	医療機能区分	2025年医療供給	
		医療機関所在地ベースによる供給数 (人/日)	病床の必要量 (床)
湖東	高度急性期	61	82
	急性期	277	355
	回復期	264	293
	慢性期	261	284
	合計	863	1,014
湖北	高度急性期	121	161
	急性期	347	446
	回復期	259	288
	慢性期	62	67
	合計	789	962
湖西	高度急性期	13	18
	急性期	89	114
	回復期	131	146
	慢性期	103	112
	合計	336	390
滋賀県	高度急性期	957	1,277
	急性期	3,017	3,871
	回復期	3,221	3,579
	慢性期	2,384	2,592
	合計	9,579	11,319

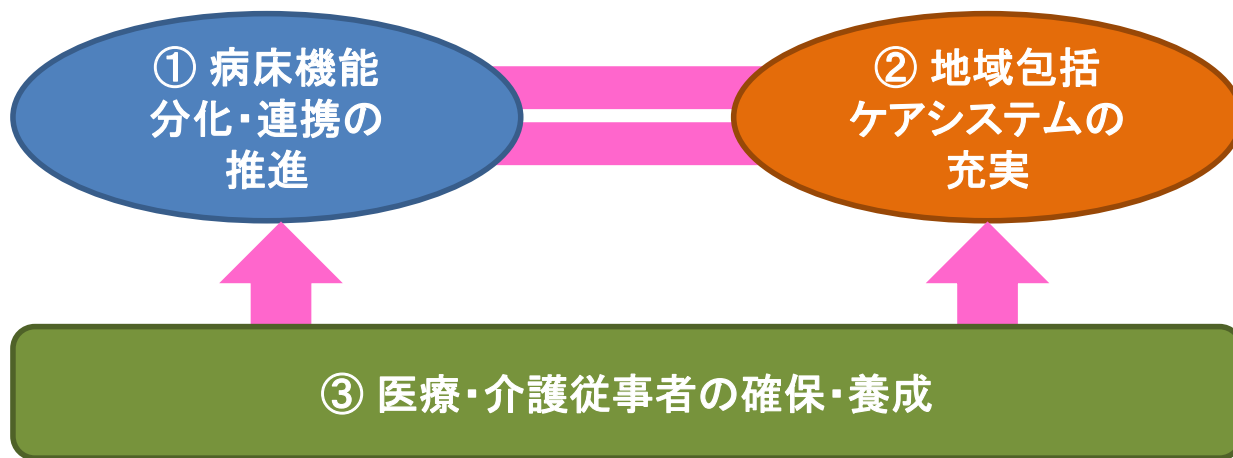
※病床の必要量は、供給数を病床稼働率(高度急性期75%/急性期78%/回復期90%/慢性期92%)で割り戻した数

# 地域医療構想で目指す姿

## 【基本目標】

誰もが状態に応じて適切な場所で必要なサービスを受けられる「滋賀の医療福祉」の実現

『病床機能\*地域包括ケアシステム』は両輪で！



### (1) 病床機能分化・連携

- ① 県民の命を守る高度・専門医療の維持・発展
- ② 高齢化に対応した病床機能の充実強化
- ③ 切れ目のない医療連携システムの構築

### (2) 地域包括ケアシステムの充実

- ① 在宅医療・介護サービス提供基盤の充実強化
- ② 在宅医療・介護連携の推進
- ③ 地域包括ケアシステムを支える予防・住まい・生活支援の充実

### (3) 医療・介護従事者の確保・養成

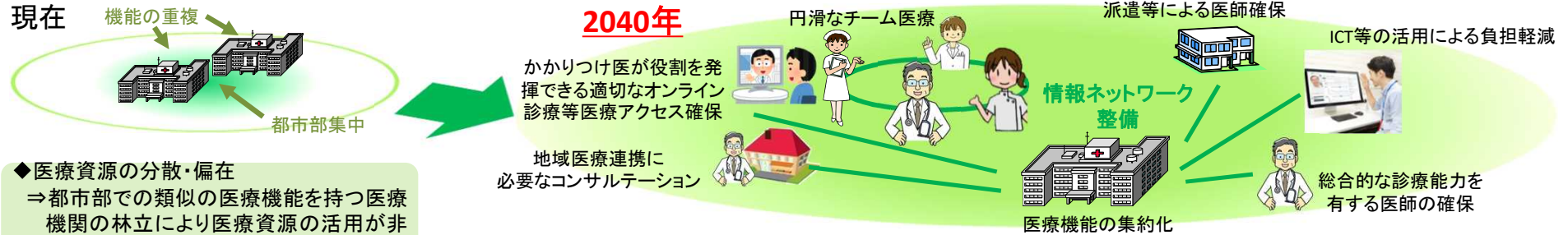
- ① 病床機能分化・連携推進のための医療従事者確保・養成
- ② 地域包括ケアシステム充実のための医療・介護従事者の確保・養成
- ③ 医療・介護従事者の連携推進



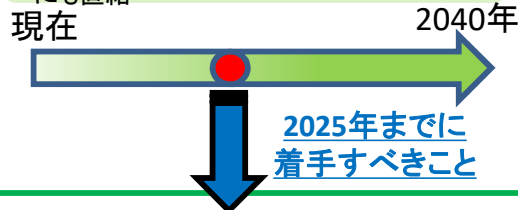
# 【地域医療構想策定後の取組】 (厚生労働省)

- 医療提供体制の改革については2025年を目指した地域医療構想の実現等に取り組んでいるが、2025年以降も少子高齢化の進展が見込まれ、さらに人口減に伴う医療人材の不足、医療従事者の働き方改革といった新たな課題への対応も必要。
- 2040年の医療提供体制の展望を見据えた対応を整理し、地域医療構想の実現等だけでなく、医師・医療従事者の働き方改革の推進、実効性のある医師偏在対策の着実な推進が必要。

## 2040年の医療提供体制（医療ニーズに応じたヒト、モノの配置）



- ◆医療資源の分散・偏在  
⇒都市部での類似の医療機能を持つ医療機関の林立により医療資源の活用が非効率に  
⇒医師の少ない地域での医療提供量の不足・医師の過剰な負担
- ◆疲弊した医療現場は医療安全への不安にも直結



### どこにいても必要な医療を最適な形で

- ・限られた医療資源の配置の最適化（医療従事者、病床、医療機器）  
⇒医療計画に「地域医療構想」「医師確保計画」が盛り込まれ、総合的な医療提供体制改革が可能に
- ・かかりつけ医が役割を發揮するための地域医療連携や適切なオンライン診療の実施

### 医師・医療従事者の働き方改革で、より質が高く安全で効率的な医療へ

- ・人員配置の最適化やICT等の技術を活用したチーム医療の推進と業務の効率化
- ・医療の質や安全の確保に資する医療従事者の健康確保や負担軽減
- ・業務の移管や共同化（タスク・シフティング、タスク・シェアリング）の浸透

## 2040年を展望した2025年までに着手すべきこと

### 地域医療構想の実現等

- ①全ての公立・公的医療機関等における具体的対応方針の合意形成
- ②合意形成された具体的対応方針の検証と地域医療構想の実現に向けた更なる対策
- ③かかりつけ医が役割を發揮するための適切なオンライン診療等を推進するための適切なルール整備 等

## 三位一体で推進

### 医師・医療従事者の働き方改革の推進

- ①医師の労働時間管理の徹底
- ②医療機関内のマネジメント改革（管理者・医師の意識改革、業務の移管や共同化（タスク・シフティングやタスク・シェアリング）、ICT等の技術を活用した効率化 等）
- ③**医師偏在対策**による地域における医療従事者等の確保（地域偏在と診療科偏在の是正）
- ④地域医療提供体制における機能分化・連携、集約化・重点化の推進（これを推進するための医療情報の整理・共有化を含む）⇒**地域医療構想の実現**

### 実効性のある医師偏在対策の着実な推進

- ①地域医療構想や2040年の医療提供体制の展望と整合した**医師偏在対策**の施行
  - ・医師偏在指標に基づく医師確保計画の策定と必要な施策の推進
  - ・将来の医療ニーズに応じた地域枠の設定・拡充
  - ・地域ごとに異なる人口構成の変化等に対応した将来の診療科別必要医師数を都道府県ごとに算出
- ②総合的な診療能力を有する医師の確保等のプライマリ・ケアへの対応

## 【経済財政運営と改革の基本方針2017（平成29年6月9日閣議決定）【抜粋】】

地域医療構想の実現に向けて地域ごとの「地域医療構想調整会議」での具体的議論を促進する。病床の役割分担を進めるためデータを国から提供し、個別の病院名や転換する病床数等の具体的対応方針の速やかな策定に向けて、2年間程度で集中的な検討を促進する。これに向けて、介護施設や在宅医療等の提供体制の整備と統合的な慢性期機能の再編のための地域における議論の進め方を速やかに検討する。このような自主的な取組による病床の機能分化・連携が進まない場合には、都道府県知事はその役割を適切に発揮できるよう、権限の在り方について、速やかに関係審議会等において検討を進める。また、地域医療介護総合確保基金について、具体的な事業計画を策定した都道府県に対し、重点的に配分する。

## 【経済財政運営と改革の基本方針2018（平成30年6月15日閣議決定）【抜粋】】

地域医療構想の実現に向けた個別の病院名や転換する病床数等の具体的対応方針について、昨年度に続いて集中的な検討を促し、2018年度中の策定を促進する。公立・公的医療機関については、地域の医療需要等を踏まえつつ、地域の民間医療機関では担うことができない高度急性期・急性期医療や不採算部門、過疎地等の医療提供等に重点化するよう医療機能を見直し、これを達成するための再編・統合の議論を進める。このような自主的な取組による病床の機能分化・連携が進まない場合には、都道府県知事はその役割を適切に発揮できるよう、権限の在り方について、速やかに関係審議会等において検討を進める。病床の転換や介護医療院への移行などが着実に進むよう、地域医療介護総合確保基金や急性期病床や療養病床に係る入院基本料の見直しによる病床再編の効果などこれまでの推進方策の効果・コストの検証を行い、必要な対応を検討するとともに、病床のダウンサイジング支援の追加的方策を検討する。

# 「地域医療構想の進め方について」※のポイント

## 地域医療構想調整会議の協議事項

※平成30年2月7日付け医政地発0207第1号厚生労働省医政局地域医療計画課長通知

【個別の医療機関ごとの具体的対応方針の決定への対応】

○ **都道府県は、毎年度、地域医療構想調整会議において合意した具体的対応方針をとりまとめること。**

具体的対応方針のとりまとめには、以下の内容を含むこと。

- ①2025年を見据えた構想区域において担うべき医療機関としての役割
- ②2025年に持つべき医療機能ごとの病床数

⇒平成30年度以降の地域医療介護総合確保基金の配分に当たっては、具体的対応方針のとりまとめの進捗状況を考慮する。

○ **公立病院、公的医療機関等は、「新公立病院改革プラン」「公的医療機関等2025プラン」を策定し、平成29年度中に協議すること。**

⇒協議の際は、構想区域の医療需要や現状の病床稼働率、民間医療機関との役割分担などを踏まえ公立病院、公的病院でなければ担えない分野へ重点化されているかどうかについて確認すること。

○ **その他の医療機関のうち、担うべき役割を大きく変更する病院などは、今後の事業計画を策定し、速やかに協議すること。**

○ **上記以外の医療機関は、遅くとも平成30年度末までに協議すること。**

【その他】

○ 都道府県は、以下の医療機関に対し、地域医療構想調整会議へ出席し、必要な説明を行うよう求めること。

- ・病床が全て稼働していない病棟を有する医療機関
- ・新たな病床を整備する予定の医療機関
- ・開設者を変更する医療機関

## 地域医療構想調整会議での個別の医療機関の取組状況の共有

○ **都道府県は、個別の医療機関ごと（病棟ごと）に、以下の内容を提示すること。**

- ①医療機能や診療実績
- ②地域医療介護総合確保基金を含む各種補助金等の活用状況
- ③公立病院・公的病院等について、病床稼働率、紹介・逆紹介率、救急対応状況、医師数、経営に関する情報など

## 地域医療構想調整会議の運営

○ **都道府県は、構想区域の実情を踏まえながら、年間スケジュールを計画し、年4回は地域医療構想調整会議を実施すること。**

○ 医療機関同士の意見交換や個別相談などの場を組合せながら、より多くの医療機関の主体的な参画が得られるよう進めること。

# 地域医療構想調整会議の活性化に向けた方策について

## 都道府県単位の地域医療構想調整会議

平成30年6月22日付け医政地発0622第2号厚生労働省医政局地域医療計画課長通知  
平成30年6月26日付け厚生労働省医政局地域医療計画課事務連絡

- **都道府県は、各構想区域の調整会議における議論が円滑に進むように支援する観点から、都道府県単位の地域医療構想調整会議を設置**  
(協議事項)
  - ・各構想区域における調整会議の運用に関すること(地域医療構想調整会議の協議事項、年間スケジュールなど)
  - ・各構想区域における調整会議の議論の進捗状況に関すること(具体的対応方針の合意の状況、再編統合の議論の状況など)
  - ・各構想区域における調整会議の抱える課題解決に関すること(参考事例の共有など)
  - ・病床機能報告等から得られるデータの分析に関すること(定量的な基準など)
  - ・構想区域を超えた広域での調整が必要な事項に関すること(高度急性期の提供体制など)(参加の範囲等) 各構想区域の地域医療構想調整会議の議長を含む関係者

## 都道府県主催研修会

- **都道府県は、地域医療構想の進め方について、調整会議の議長、事務局を含む関係者間の認識を共有する観点から、研修会を開催**  
(研修内容) ・行政説明 ・事例紹介 ・グループワーク  
※行政説明や事例紹介の実施に当たっては、厚生労働省の担当者を派遣

## 「地域医療構想アドバイザー」

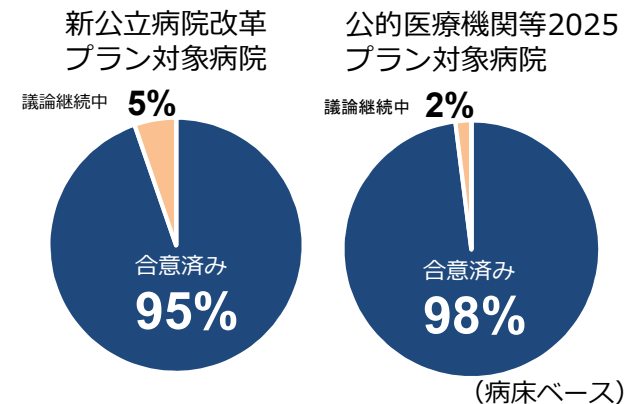
- **厚生労働省は、各構想区域の実情に応じたデータの整理や論点の提示といった調整会議の事務局が担うべき機能を補完する観点から、「地域医療構想アドバイザー」を養成**

- (役割) ・都道府県の地域医療構想の進め方について助言すること。
  - ・地域医療構想調整会議に出席し、議論が活性化するよう助言すること。
- (活動内容) ・厚生労働省が主催するアドバイザー会議への出席(年2~3回)
  - ・担当都道府県の地域医療構想の達成に向けた技術的支援(適宜)
  - ・担当都道府県の地域医療構想調整会議への出席(適宜)等
- (選定要件) ・推薦を受ける都道府県の地域医療構想、医療計画などの内容を理解していること。
  - ・医療政策、病院経営に関する知見を有すること。
  - ・各種統計、病床機能報告などに基づくアセスメントができること。
  - ・推薦を受ける都道府県の都道府県医師会等の関係者と連携がとれること。
  - ・推薦を受ける都道府県に主たる活動拠点があること。

## 1. これまでの取り組み

- これまで、2017年度、2018年度の2年間を集中的な検討期間とし、**公立・公的医療機関等においては地域の民間医療機関では担うことのできない医療機能に重点化**するよう医療機能を見直し、これを達成するための再編統合の議論を進めるように要請した。
- 公立・公的医療機関等でなければ担えない機能として、「新公立病院改革ガイドライン」や「経済財政運営と改革の基本方針2018」においてはそれぞれ、
  - ア 高度急性期・急性期機能や不採算部門、過疎地等の医療提供等
  - イ 山間へき地・離島など民間医療機関の立地が困難な過疎地等における一般医療の提供
  - ウ 救急・小児・周産期・災害・精神などの不採算・特殊部門に関わる医療の提供
  - エ 県立がんセンター、県立循環器病センター等地域の民間医療機関では限界のある高度・先進医療の提供
  - オ 研修の実施等を含む広域的な医師派遣の拠点としての機能が挙げられている。
- 2018年度末までに**全ての公立・公的医療機関等における具体的対応方針が地域医療構想調整会議で合意されるよう取組を推進。**

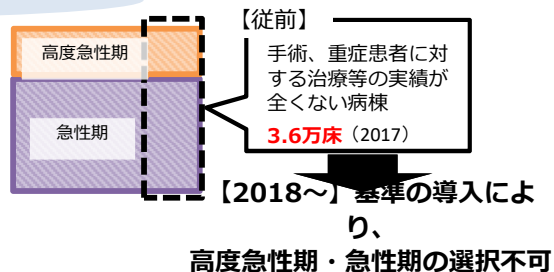
公立・公的医療機関等に関する議論の状況  
2019年3月末



### 地域医療構想の実現のための推進策

#### ○ 病床機能報告における定量的基準の導入

- 2018年10月からの病床機能報告において診療実績に着目した報告がなされるよう定量的基準を明確化し、**実績のない高度急性期・急性期病棟を適正化**



#### ○ 2018年6月より地域医療構想アドバイザーを任命

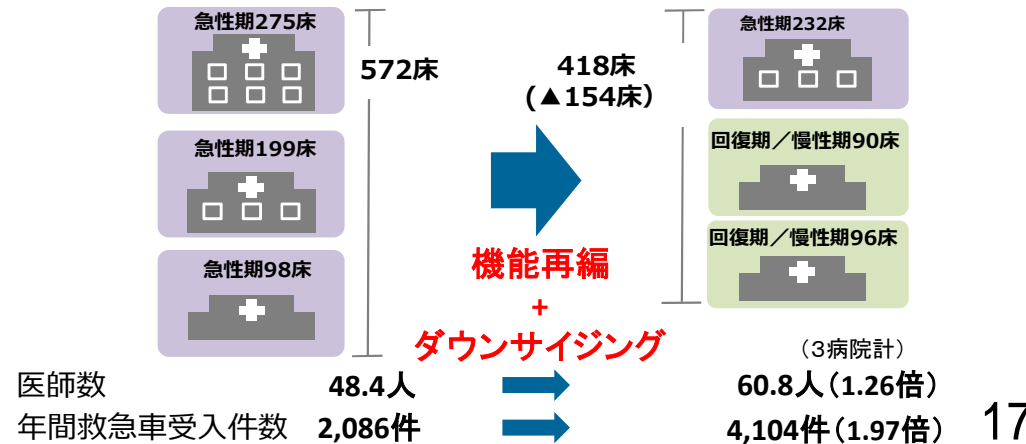
- ・調整会議における議論の支援、ファシリテート
- ・都道府県が行うデータ分析の支援 等 (36都道府県、79名 (平成31年3月))

#### ○ 2018年6月より都道府県単位の地域医療構想調整会議の設置

#### ○ 介護医療院を創設し、介護療養・医療療養病床からの転換を促進

### 機能分化連携のイメージ (奈良県南和構想区域)

- 医療機能が低下している3つの救急病院を1つの救急病院(急性期)と2つの回復期/慢性期病院に**再編し、ダウンサイジング**
- 機能集約化により医師一人当たりの救急受入件数が増え、**地域全体の医療機能の強化、効率化**が促進された



# 地域医療構想調整会議における議論の状況

第21回地域医療構想に関するWG  
(令和元年5月16日) 資料3

## ■調整会議の開催状況

4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	計
101回 (91区域)	366回 (275区域)	355回 (240区域)	505回 (323区域)	1327回

## ■病床機能報告の報告率

	6月末	9月末	12月末	3月末
病院	94.4%	96.5%	96.7%	96.8%
有床診療所	84.5%	87.6%	87.7%	87.8%

## ■非稼働病床の病床数

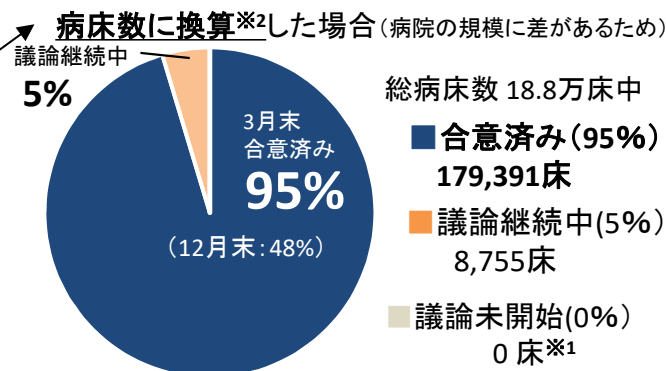
	総数	方針の議論実施 (議論中含む)
病院	16,753床	14,836床(89%)
有床診療所	9,109床	5,778床(63%)

## ■具体的な医療機関名を挙げた議論の状況 (2019年3月末時点)

### 新公立病院改革プラン対象病院

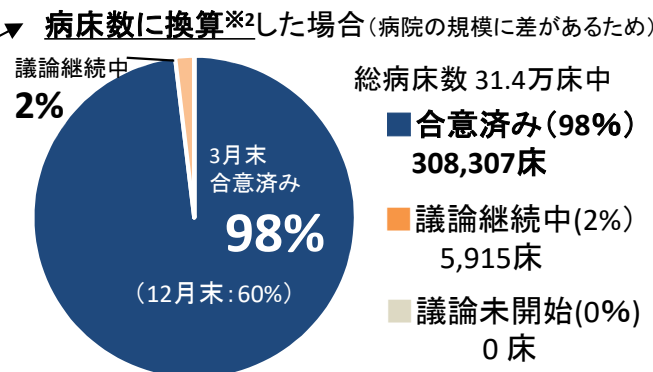
	12月末	3月末
対象病院数	823	823
うち合意済み	347	771
うち議論継続中	464	51
うち議論未開始	12	1※1

※1 福島県の帰宅困難区域内に立地する公立病院で議論ができない状況(病床数については0で処理。)



### 公的医療機関等2025プラン対象病院

	12月末	3月末
対象病院数	829	829
うち合意済み	486	810
うち議論継続中	337	19
うち議論未開始	6	0

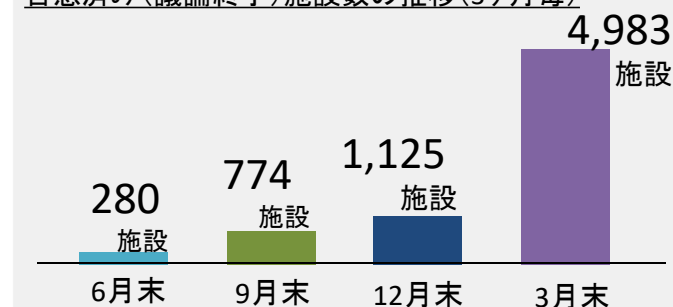


### その他の医療機関

対象	5,660病院	6,736診療所
2025年に向けた対応方針の合意状況	うち合意済み 2,228病院	1,174診療所
	うち議論継続中 1,576病院	2,159診療所

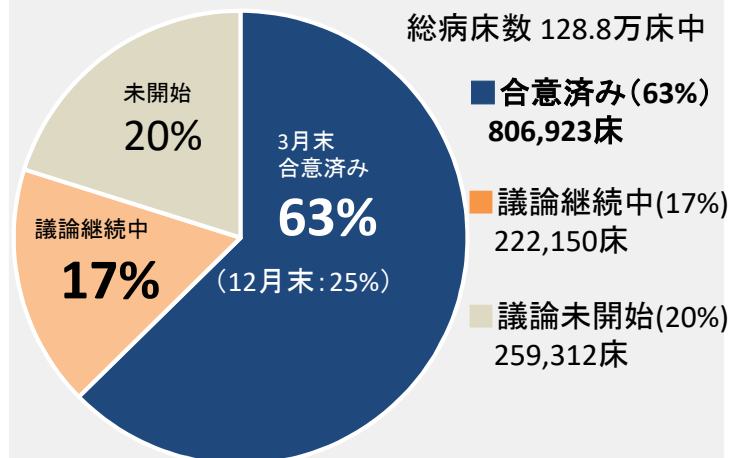
## 全ての医療機関計

合意済み(議論終了)施設数の推移(3ヶ月毎)



3月末時点における議論の状況

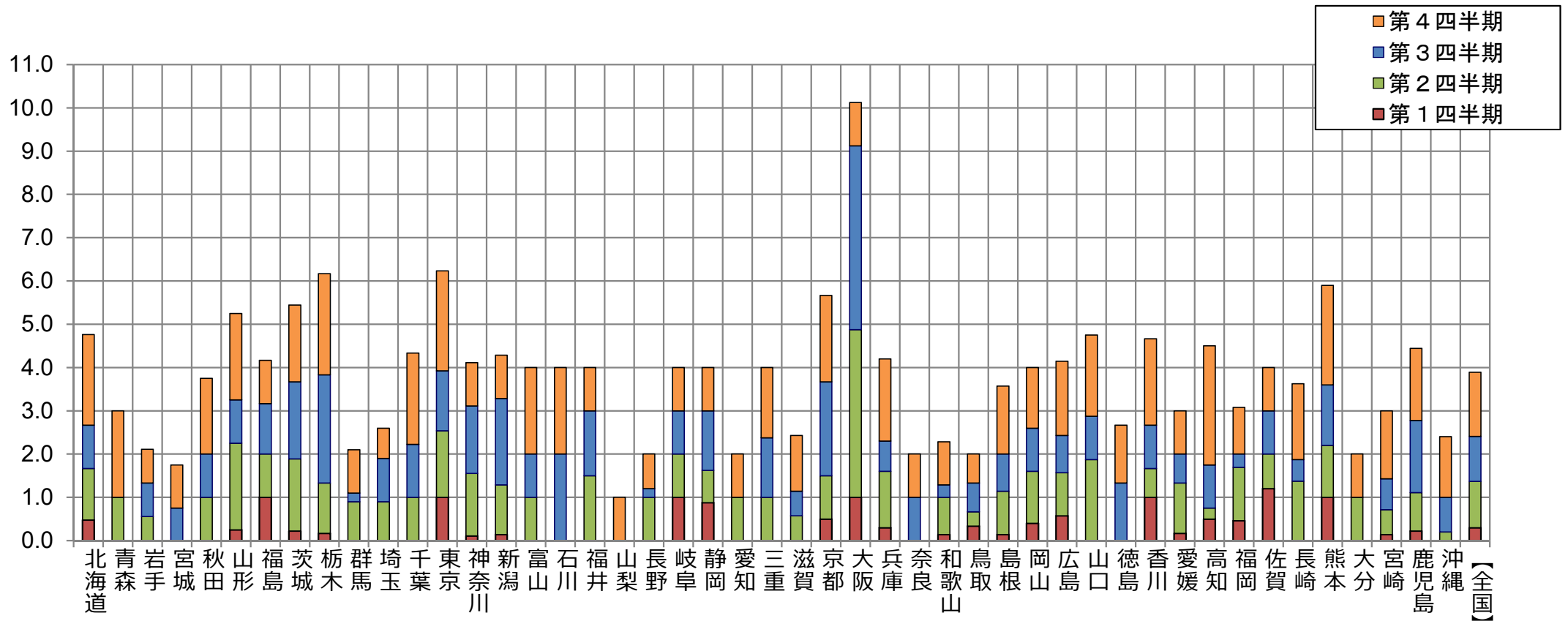
(病床数に換算した場合)



※2 病床数への換算には、2017年病床機能報告における2017年7月現在の病床数を用いた。  
(未報告医療機関の病床数は含まれていない。)

# 地域医療構想調整会議の開催状況

■ 2018年度 調整会議の開催状況（開催延べ回数／全構想区域）（2019年3月末時点）



(参考) 調整会議の実績のまとめ

	2017年度	2018年度
開催延べ数	1,067回	1,327回
構想区域当たりの平均	3.1回	3.9回



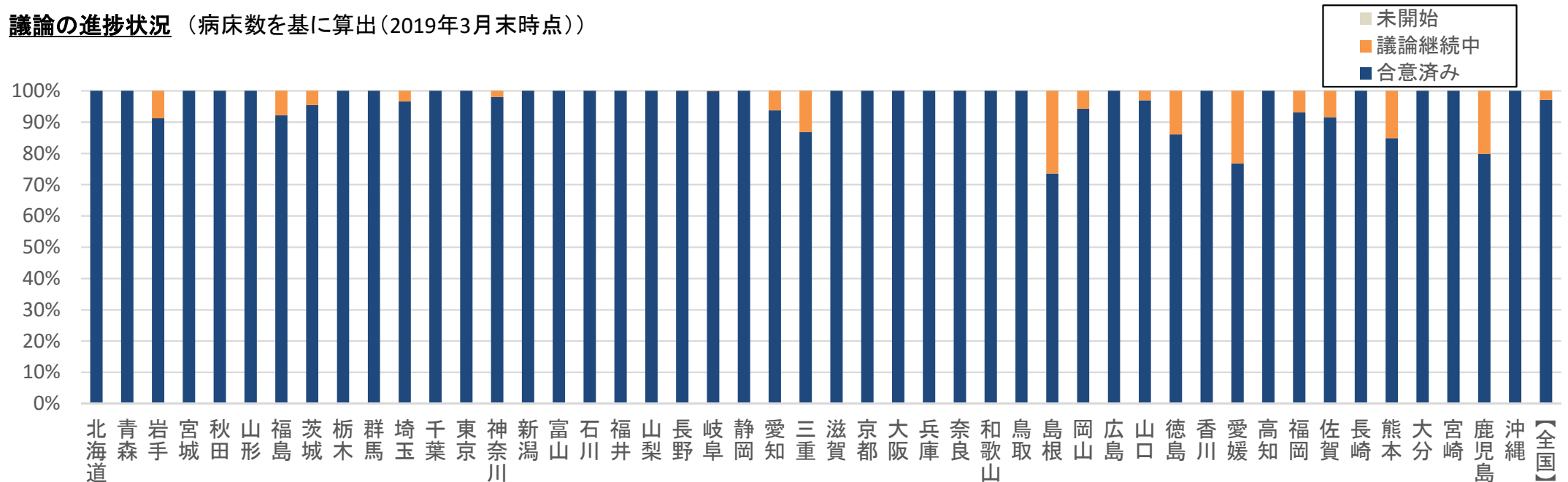
# 公立病院・公的病院に関する議論の状況

第21回地域医療構想に関するWG  
(令和元年5月16日) 資料3

対象施設数 (2019年3月末時点)

	北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県
公立 (計823)	87	24	27	29	12	23	12	8	4	13	13	29	17	19	26	12	16	7	14	21	18	25	26	15	12	13	22	42	11	11	8	12	17	19	15	11	11	15	10	17	7	14	18	5	17	12	7
公的等 (計829)	46	6	8	14	15	5	20	25	12	11	19	18	62	42	21	11	10	9	5	28	15	24	38	16	9	17	41	21	7	7	6	8	17	22	20	9	12	13	6	50	9	11	16	15	9	15	9
合計 (1,652)	133	30	35	43	27	28	32	33	16	24	32	47	79	61	47	23	26	16	19	49	33	49	64	31	21	30	63	63	18	18	14	20	34	41	35	20	23	28	16	67	16	25	34	20	26	27	16

議論の進捗状況 (病床数を基に算出(2019年3月末時点))



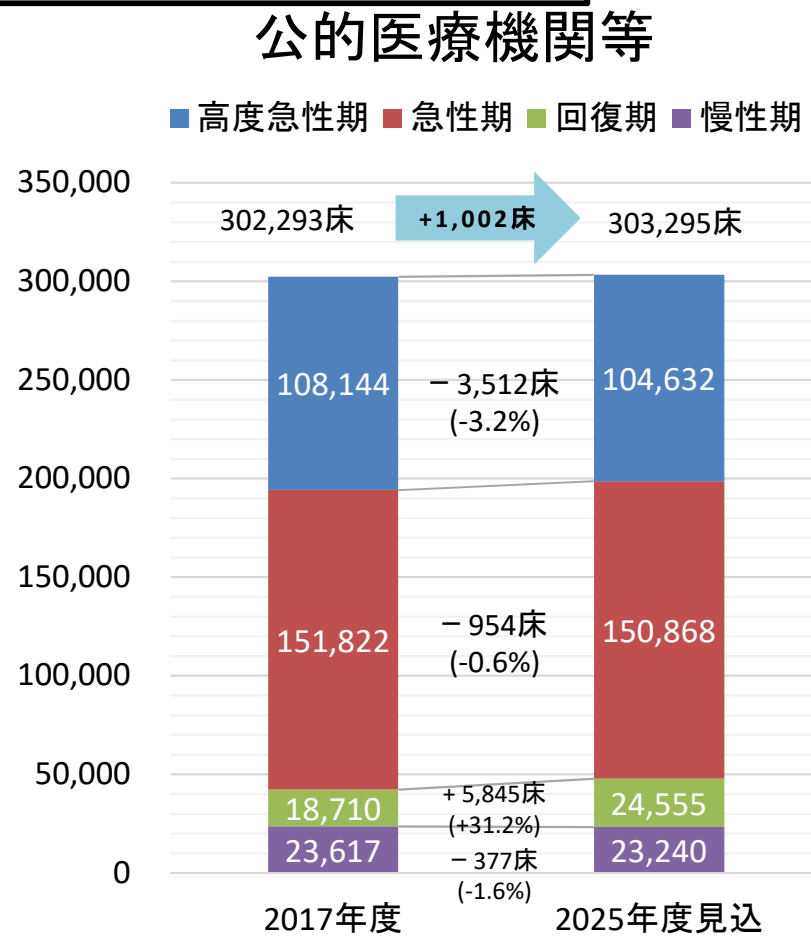
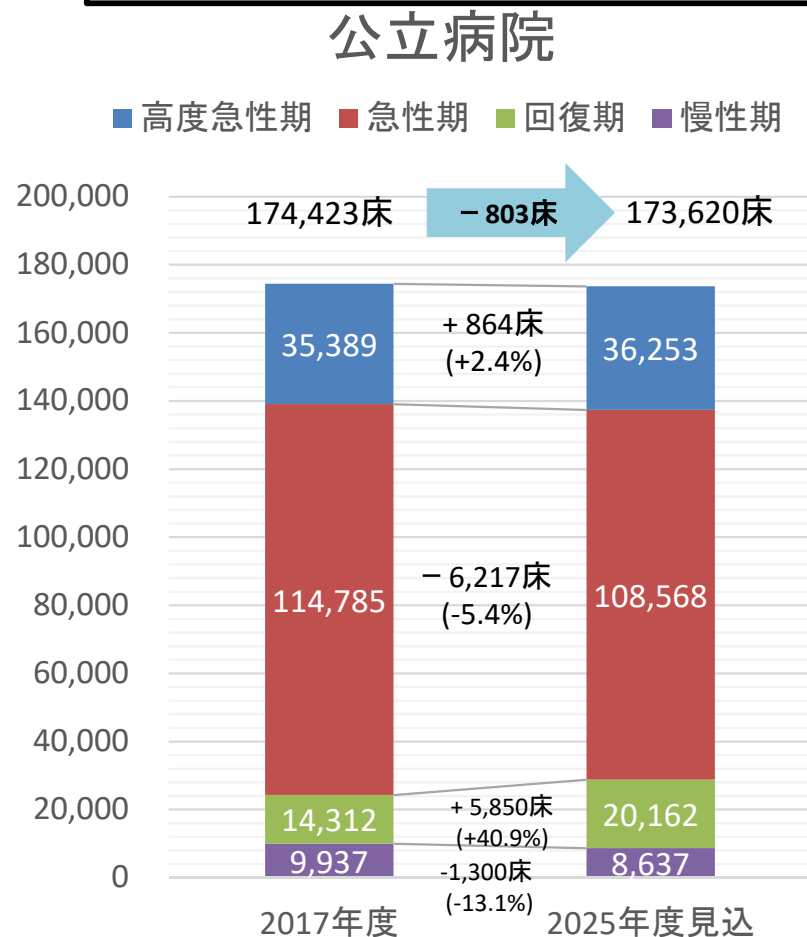
※ 病床数への換算には、2017年病床機能報告における2017年7月現在の病床数を用いた。

※ 福島県の議論未開始分(1公立病院)については、帰宅困難区域内に立地する公立病院で議論ができない状況。

- 医療機関から示された具体的対応方針が、当該医療機関でなければ担えないものに重点化されているといえないことから、再検討することとなった。
- 複数病院の一部機能を、集約する方向で検討しているが、病床削減について、地域の医療提供体制に大きな影響が生じないように慎重に議論しているため時間を要している。
- 再編統合等について、関係者間で意見が割れており、今後、医師確保などを含めた医療提供体制の具体的な在り方を示さないと議論が進まないため、その在り方の検討に時間を要している。
- 再編統合に動こうとしていたが、地元住民の反対により再編統合について再検討することとなった。
- 再編統合後の候補地について、関係自治体間で賛否が割れており、議論が進まない。

- 具体的対応方針に合意済みの公立病院・公的医療機関等の休眠等を除く高度急性期、急性期、回復期、慢性期の四機能の病床について、2017年度の病床機能報告と、具体的対応方針に基づく2025年度見込による病床数を比較。

2017年度の病床機能報告と具体的対応方針(2025年度見込)の比較



※1 具体的対応方針策定前の病床数として、2017年度病床機能報告を用いた。  
 ※2 合意に至っていない公立病院・公的医療機関等の病床数は除いて集計。

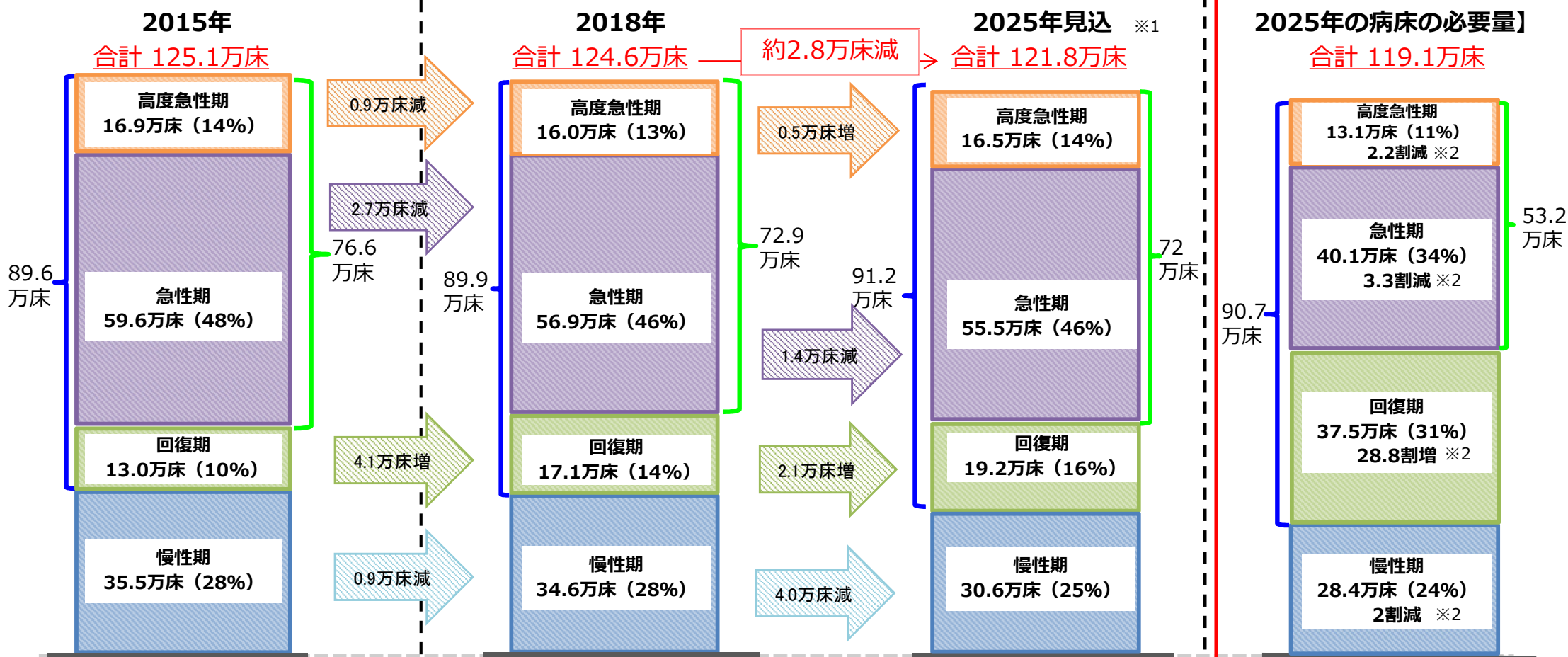
# 病床機能ごとの病床数の推移

- 2025年見込の病床数※1は**121.8万床**となっており、2015年に比べ、**3.3万床減少する見込み**だが、地域医療構想における2025年の病床の必要量と比べ未だ**2.7万床**開きがある。(同期間に、高度急性期+急性期は**4.6万床減少**、慢性期は**4.9万床減少**の見込み)
- 2025年見込の高度急性期及び急性期の病床数※1の合計は**72万床**であり、地域医療構想における2025年の病床の必要量と比べ**18.8万床**開きがある。一方で回復期については**18.3万床**不足しており、「急性期」からの転換を進める必要がある。

【2015年度病床機能報告】

【2018年度病床機能報告(2019年5月時点暫定値)】

【地域医療構想における2025年の病床の必要量】



※1: 2018年度病床機能報告において、「2025年7月1日時点における病床の機能の予定」として報告された病床数

※2: 2015年の病床数との比較

※3: 対象医療機関数及び報告率が異なることから、年度間比較を行う際は留意が必要

- 2019年年央までに各医療機関の診療実績データを分析し、公立・公的医療機関等の役割が当該医療機関でなければ担えないものに重点化されているか、合意された具体的対応方針を検証し、地域医療構想の実現に必要な協議を促進。

## 2. 今後の取り組み

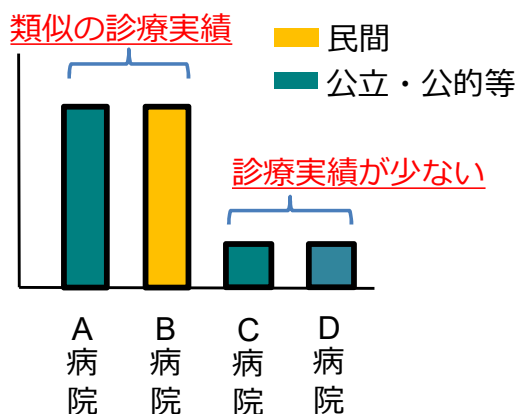
- 今後、2019年年央までに、全ての医療機関の診療実績データ分析を完了し、「**代替可能性がある**」または「**診療実績が少ない**」と位置付けられた**公立・公的医療機関等**に対して、構想区域の医療機関の診療実績や将来の医療需要の動向等を踏まえつつ、**医師の働き方改革の方向性**も加味して、**当該医療機能の他の医療機関への統合や他の病院との再編統合**について、地域医療構想調整会議で協議し改めて合意を得るように要請する予定。

### 分析内容

- ① 分析項目ごとに診療実績等の一定の指標を設定し、当該医療機関でなければ担えないものに重点化されているか分析する。  
重点化が不十分な場合、他の医療機関による代替可能性があるとする。
  - A 各分析項目について、構想区域内に、一定数以上の診療実績を有する医療機関が2つ以上あり、かつ、お互いの所在地が近接している。
  - B 各分析項目について、診療実績が特に少ない。
- ② 医療機関の所在地や、他の医療機関との位置関係を確認するなど、地理的条件も勘案する。

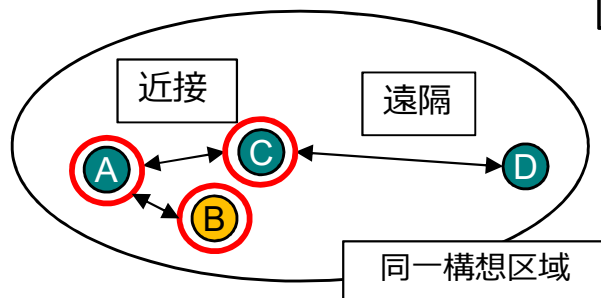
### 分析のイメージ

- ① 診療実績の**データ分析**  
(領域等 (例: がん、救急等) ごと)



- ② 地理的条件の**確認**

類似の診療実績がある場合又は診療実績が少ない場合のうち、**近接**している場合を確認



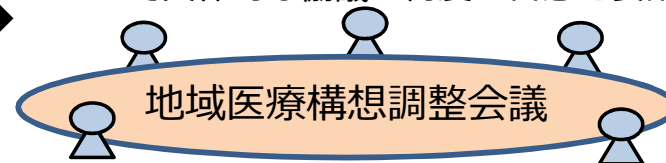
①及び②により「**代替可能性あり**」とされた公立・公的医療機関等

- ③ 分析結果を踏まえた地域医療構想調整会議における**検証**

医療機関の診療実績や将来の医療需要の動向等を踏まえ、**医師の働き方改革の方向性**も加味して、

- **代替可能性のある機能の他の医療機関への統合**
- **病院の再編統合**

について具体的な協議・再度の合意を要請



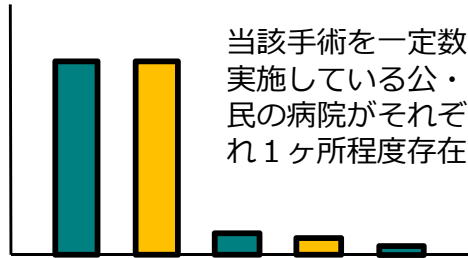
○ 今回の検証の要請に加え、厚生労働省自らも、地域ごとに助言・支援を実施することを検討

## 視点1

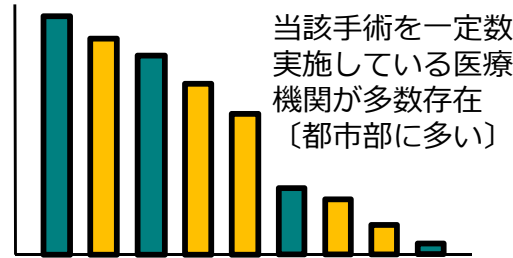
**代表的な手術の実績**を確認し、機能の重点化について特に議論が必要なケースに該当するか確認。

■ 公立・公的病院等 ■ 民間医療機関

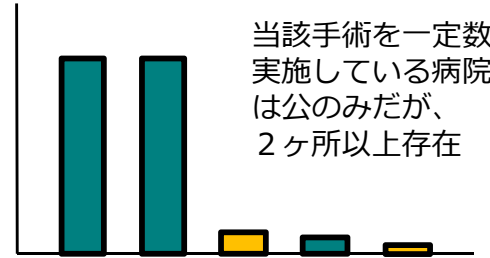
### □ パターン (ア)



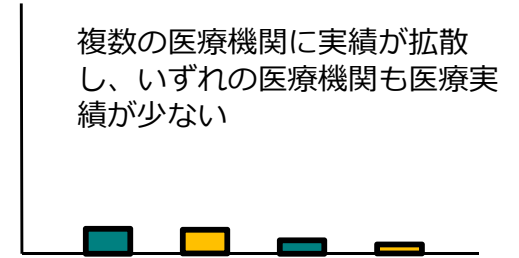
### □ パターン (イ)



### □ パターン (ウ)



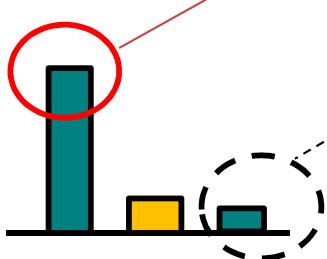
### □ パターン (エ)



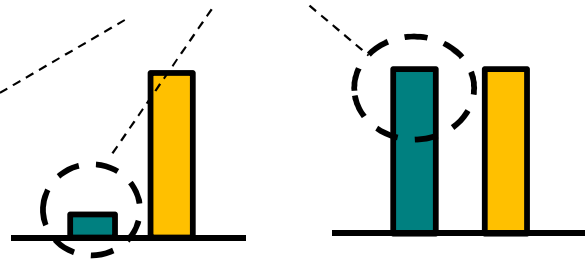
## 視点2

**特定の手術以外の幅広い診療実績や、患者像**を確認し、構想区域内で、当該医療機関に固有の役割があるか確認。

### □ 固有の役割あり



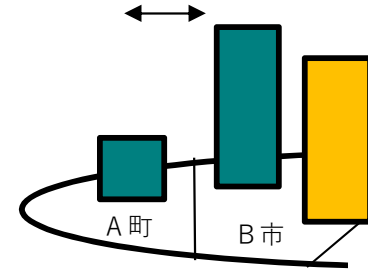
### □ 固有の役割なし



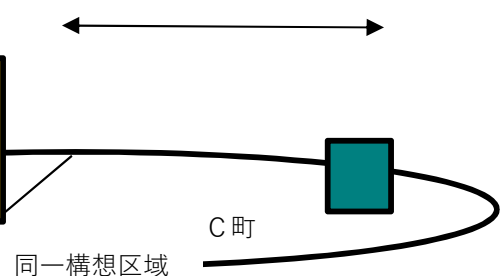
## 視点3

**地理的条件（位置関係、移動に要する時間）**を確認し、近接の度合いを確認。

### □ 近接



### □ 遠隔



同一構想区域

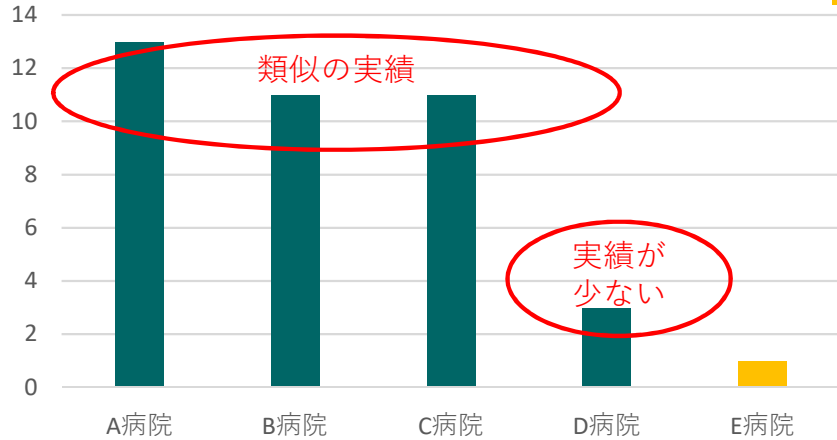
## 「評価の視点のイメージ」

- ① **手術実績が一定数ある医療機関が複数存在している場合**、公立・公的病院等は地域の医療需要やそれぞれの病院が診療する患者像等を確認し、地域の民間医療機関では担うことができない医療提供等に重点化されているかを確認する。
- ② 各々の手術によって構想区域の競合状況が異なるため、**特定の手術のみではなく、手術以外の診療実績も含めて**、地域の民間医療機関では担うことができない固有の役割があるか確認する。
- ③ 診療実績が少ない、構想区域内で固有の役割が無いといった状況にある公立・公的医療機関等については、**地理的条件等を踏まえ**、他の医療機関等との近接状況を確認する。
- ④ 以上をふまえ、**当該医療機関でなければ担うことができない機能への重点化が図られている**とは言い難い公立・公的医療機関等は、**再編統合やダウンサイジング、機能転換**といった対応策を念頭に、**地域医療構想調整会議での議論を更に深める**。

- 主要な手術の実績をみると、一定の実績を有するA～Dの公立・公的医療機関が存在。
- A～C病院については他の診療実績や患者像においても一定の実績があるが、D病院については手術の実績が比較的少なく、手術以外の診療実績や患者像を踏まえてもなお、構想区域内での固有の役割がみられない。

## ■ 手術実績

胃・結腸・直腸悪性腫瘍手術



## ■ 基本情報

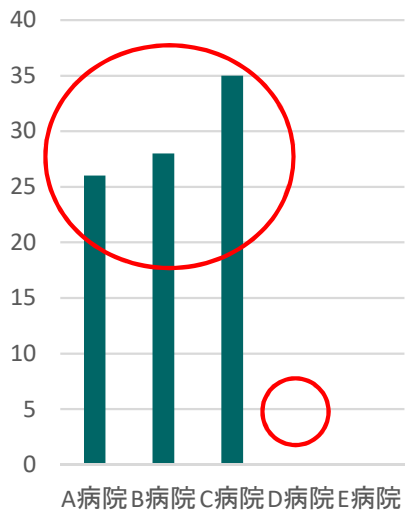
人口 (※1)	高齢化率 (※1)	一般病院数 (※2)	有床診 (※2)	病床数計 (※2)
33万	21	11	13	3.0千

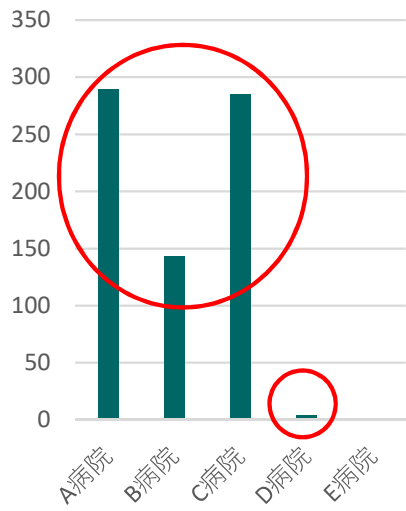
病床利用率 (※3)		医療施設従事医師数 (※4)	流入入院患者割合 (※5)	流出入院患者割合 (※5)
一般病床	療養病床			
76	92	697	32	32

## ■ 手術以外の診療実績

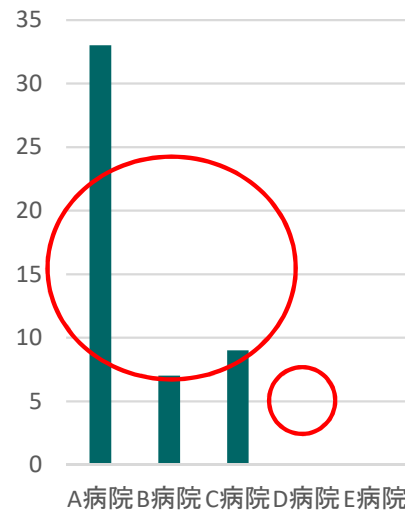
経皮的冠動脈形成術



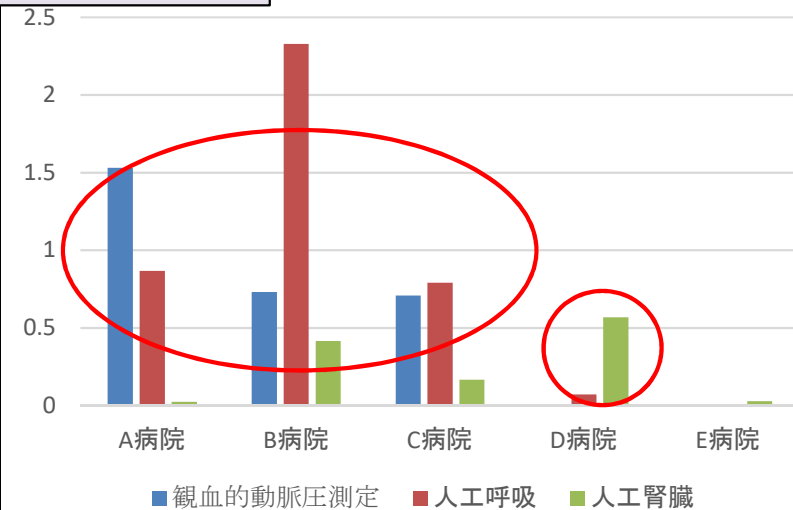
化学療法



放射線治療



## ■ 患者像



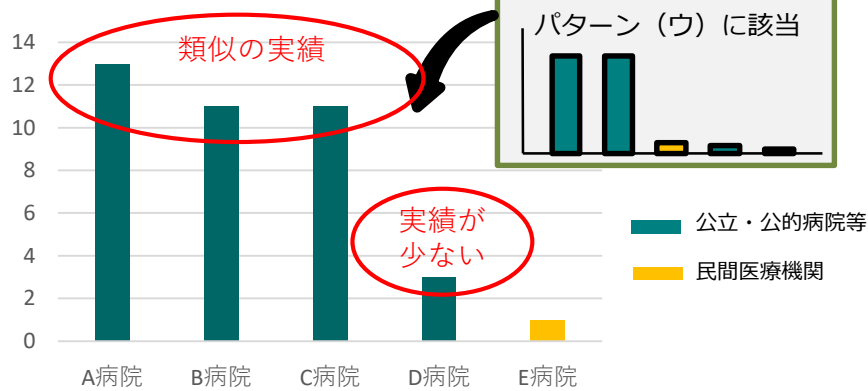
当該病院で、胃・結腸・直腸悪性腫瘍手術を実施している病棟において、一床あたりの算定回数（月あたり）を示したもの。

# A 構想区域における医療機関の位置関係

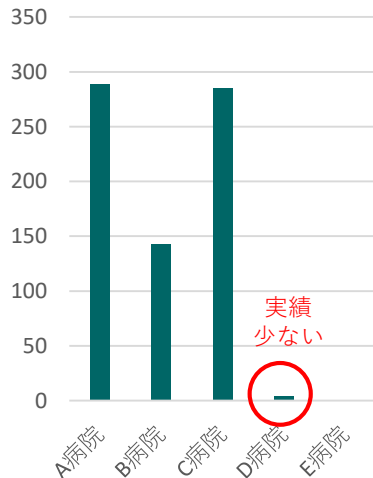
- 同程度の手術を実施しているA～Cの公立・公的医療機関について、各医療機関の位置関係をみると、概ね10km程度の距離圏内に存在（自動車で5～20分程度）
- 診療実績からは固有の役割がうかがえないD医療機関について、特にA医療機関やC医療機関と近接している。

## ■手術などの実績

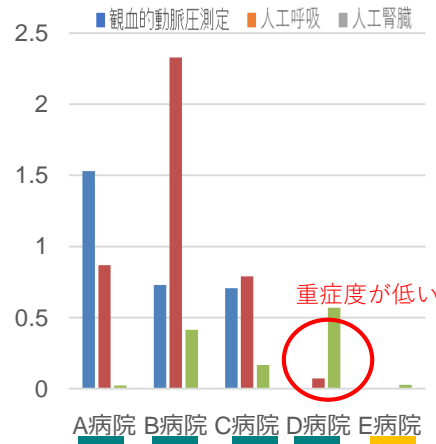
胃・結腸・直腸悪性腫瘍手術



放射線治療

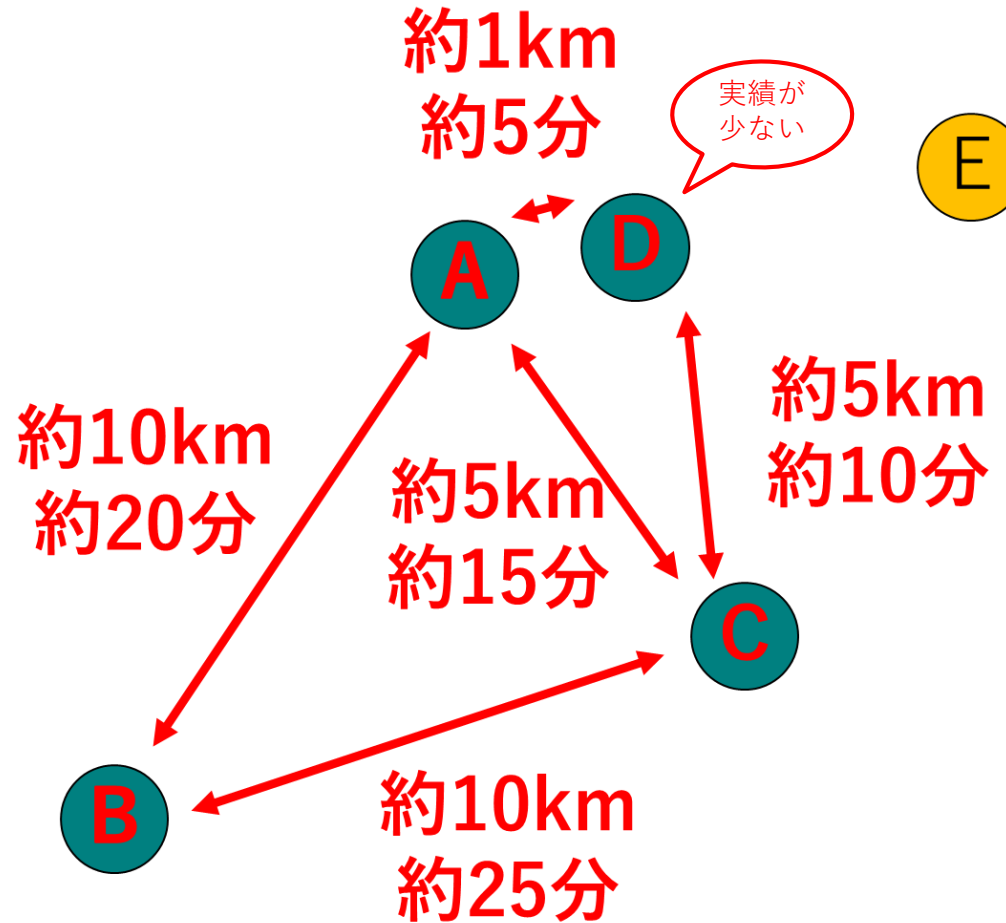


患者像



当該病院で、胃・結腸・直腸悪性腫瘍手術を実施している病棟において、一床あたりの算定回数（月あたり）を示したものの。

## ■地理的条件





# 【地域医療構想策定後の取組】 （滋賀県における取組）

# 地域医療構想策定の策定後の実現に向けた取組

① 都道府県は、機能分化・連携を図る区域として「構想区域」を設定。

※ 「構想区域」は、現在の2次医療圏を原則とするが、①人口規模、②患者の受療動向、③疾病構造の変化、④基幹病院へのアクセス時間等の要素を勘案して柔軟に設定



② 「構想区域」ごとに、国がお示しするガイドライン等で定める推計方法に基づき、都道府県が、2025年の医療需要と病床の必要量を推計。地域医療構想として策定。



③ 地域医療構想の実現に向けて、都道府県は構想区域ごとに、「地域医療構想調整会議」を開催。

※ 「地域医療構想調整会議」には、医師会、歯科医師会、病院団体、医療保険者等が参加。

・ 病床機能報告制度の報告結果等を基に、現在の医療提供体制と将来の病床の必要量を比較して、どの機能の病床が不足しているか等を検討。

・ 医療機関相互の協議により、機能分化・連携について議論・調整。



④ 都道府県は、地域医療介護総合確保基金等を活用し、医療機関による自主的な機能分化・連携を推進。

○構想実現に向けては、**平成28年度以降、毎年度、③の調整会議で協議・調整**するとともに、**④の事業を進めることにより望ましい医療提供体制に近づけていく。**

# 滋賀県地域医療構想推進体制

## 県全体

### 滋賀県医療審議会

※医療法71条の2

#### 【構成メンバー】

学識経験者、県医師会、県歯科医師会、県薬剤師会、県看護協会、病院団体、その他医療関係団体、市町代表、保険者、患者団体、その他関係団体、公募委員（委員数：24人）

## 構想区域

### 地域医療構想調整会議

※医療法30条の14

大津

湖南

甲賀

東近江

湖東

湖北

湖西

【構成メンバー】 医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会、各病院、市町、保険者



※関連する会議・協議会等との連携

○ 医療福祉を推進する地域協議会  
(大津区域を除く)

○ 大津市医療福祉推進協議会

○ その他市町が主催する会議等

○ 保健・医療・福祉に関する会議等

- ・認知症地域連携協議会
- ・地域リハビリテーション協議会
- ・地域職域推進会議 など

(仮称) 病床機能分化・連携にかかる意見交換会

【メンバー】 関係病院

# 平成30年度の調整会議開催状況

圏域名	調整会議	意見交換会
大津	2回	2回
湖南	3回	0回
甲賀	1回	1回
東近江	4回	4回
湖東	3回	2回
湖北	3回	3回
湖西	1回	0回

# 平成30年度における調整会議の議論(抜粋)

- ◆ 圏域毎に医療資源が異なるため、圏域に応じた議論を実施

圏域	調整会議
東近江、湖東	圏域内の全ての病院が2025年の姿についてプランを作成、住民啓発
湖北	湖北圏域における病院機能の再編について協議開始
湖西	地域医療連携推進法人滋賀高島の設立
全圏域	病床機能報告を用いた定量的な基準に基づく医療機能分析の実施

# 病床機能報告制度

- 各医療機関(有床診療所を含む。)は、毎年、病棟単位で、医療機能の「現状」と「今後の方向」を、自ら1つ選択して、都道府県に報告。

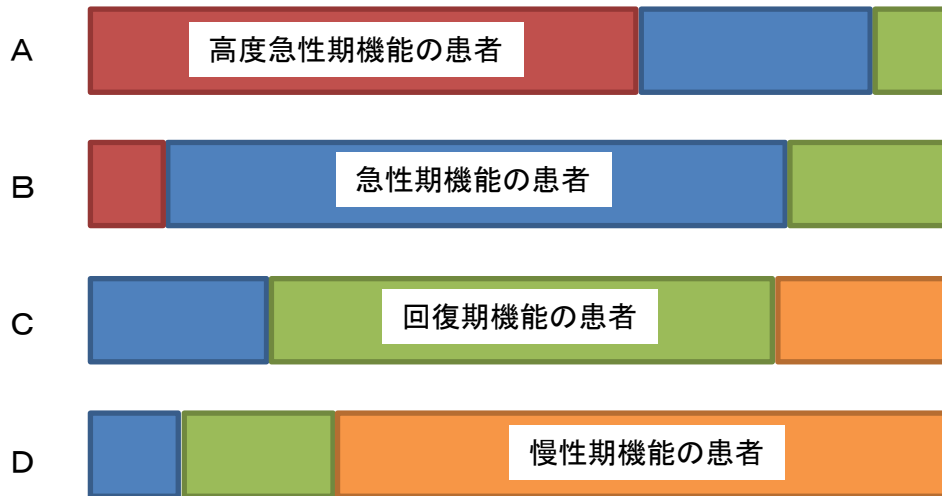
医療機能の名称	医療機能の内容
高度急性期機能	○ 急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、診療密度が特に高い医療を提供する機能 ※高度急性期機能に該当すると考えられる病棟の例 救命救急病棟、集中治療室、ハイケアユニット、新生児集中治療室、新生児治療回復室、小児集中治療室、総合周産期集中治療室であるなど、急性期の患者に対して診療密度が特に高い医療を提供する病棟
急性期機能	○ 急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、医療を提供する機能
回復期機能	○ 急性期を経過した患者への在宅復帰に向けた医療やリハビリテーションを提供する機能。 ○ 特に、急性期を経過した脳血管疾患や大腿骨頸部骨折等の患者に対し、ADLの向上や在宅復帰を目的としたリハビリテーションを集中的に提供する機能(回復期リハビリテーション機能)。
慢性期機能	○ 長期にわたり療養が必要な患者を入院させる機能 ○ 長期にわたり療養が必要な重度の障害者(重度の意識障害者を含む)、筋ジストロフィー患者又は難病患者等を入院させる機能

- 回復期機能については、「リハビリテーションを提供する機能」や「回復期リハビリテーション機能」のみではなく、リハビリテーションを提供していなくても「急性期を経過した患者への在宅復帰に向けた医療」を提供している場合には、回復期機能を選択できる。
- 地域包括ケア病棟については、当該病棟が主に回復期機能を提供している場合は、回復期機能を選択し、主に急性期機能を提供している場合は急性期機能を選択するなど、個々の病棟の役割や入院患者の状態に照らして、医療機能を適切に選択すること。
- 特定機能病院においても、病棟の機能の選択に当たっては、一律に高度急性期機能を選択するのではなく、個々の病棟の役割や入院患者の状態に照らして、医療機能を適切に選択すること。

# 医療機能の選択に当たっての基本的な考え方

病床機能報告においては、病棟が担う医療機能をいずれか1つ選択して報告することとされているが、実際の病棟には様々な病期の患者が入院していることから、下図のように当該病棟でいずれかの機能のうち最も多くの割合の患者を報告することを基本とする。

(ある病棟の患者構成イメージ)



各々の病棟については、

「高度急性期機能」

「急性期機能」

「回復期機能」

「慢性期機能」

として報告することを基本とする。

# 特定の機能を有する病棟における病床機能報告の取扱い

特定入院料等を算定する病棟については、一般的には、次のとおりそれぞれの機能として報告するものとして取り扱う。  
その他の一般入院料等を算定する病棟については、各病棟の実態に応じて選択する。

## 高度急性期機能

- 急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、診療密度が特に高い医療を提供する機能

※高度急性期機能に該当すると考えられる病棟の例  
救命救急病棟、集中治療室、ハイケアユニット、新生児集中治療室、新生児治療回復室、小児集中治療室、総合周産期集中治療室であるなど、急性期の患者に対して診療密度が特に高い医療を提供する病棟

## 急性期機能

- 急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、医療を提供する機能

## 回復期機能

- 急性期を経過した患者への在宅復帰に向けた医療やリハビリテーションを提供する機能。
- 特に、急性期を経過した脳血管疾患や大腿骨頸部骨折等の患者に対し、ADLの向上や在宅復帰を目的としたリハビリテーションを集中的に提供する機能(回復期リハビリテーション機能)。

## 慢性期機能

- 長期にわたり療養が必要な患者を入院させる機能
- 長期にわたり療養が必要な重度の障害者(重度の意識障害者を含む)、筋ジストロフィー患者又は難病患者等を入院させる機能

- 救命救急入院料
- 特定集中治療室管理料
- ハイケアユニット入院医療管理料
- 脳卒中ケアユニット入院医療管理料
- 小児特定集中治療室管理料
- 新生児特定集中治療室管理料
- 総合周産期特定集中治療室管理料
- 新生児治療回復室入院管理料

- 地域包括ケア病棟入院料(※)

※ 地域包括ケア病棟については、当該病棟が主に回復期機能を提供している場合は、回復期機能を選択し、主に急性期機能を提供している場合は急性期機能を選択するなど、個々の病棟の役割や入院患者の状態に照らして、医療機能を適切に選択。

- 回復期リハビリテーション病棟入院料

- 特殊疾患入院医療管理料
- 特殊疾患病棟入院料
- 療養病棟入院基本料



# 具体的な医療の内容に関する項目と病床機能

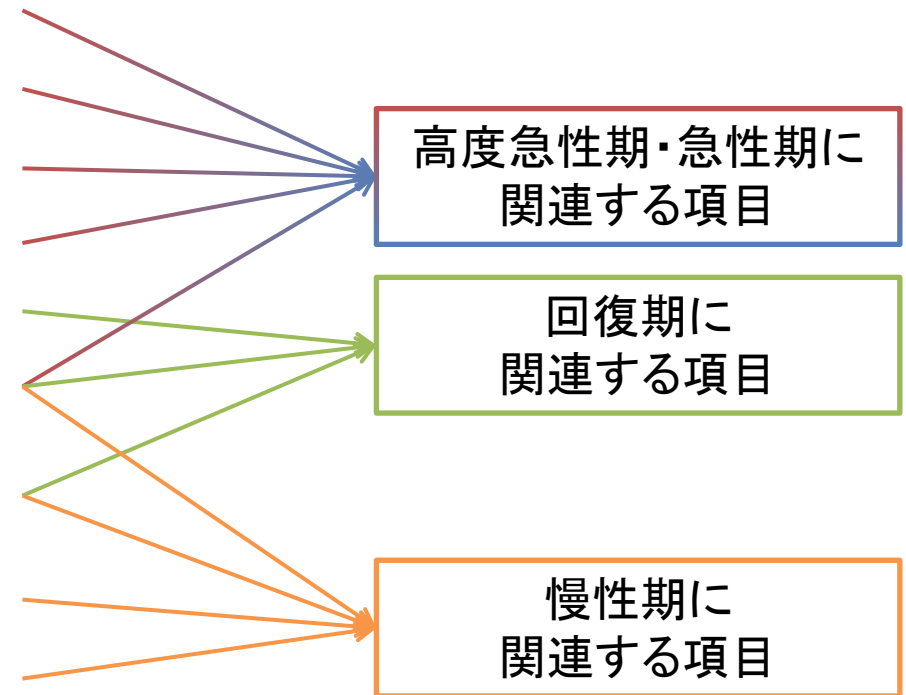
- 病床機能報告における「具体的な医療の内容に関する項目」と、病床機能との関連性を以下のとおり整理。

第10回地域医療構想 に関するWG	資料
平成29年12月13日	2-2

## 【具体的な医療の内容に関する項目】

<様式2>

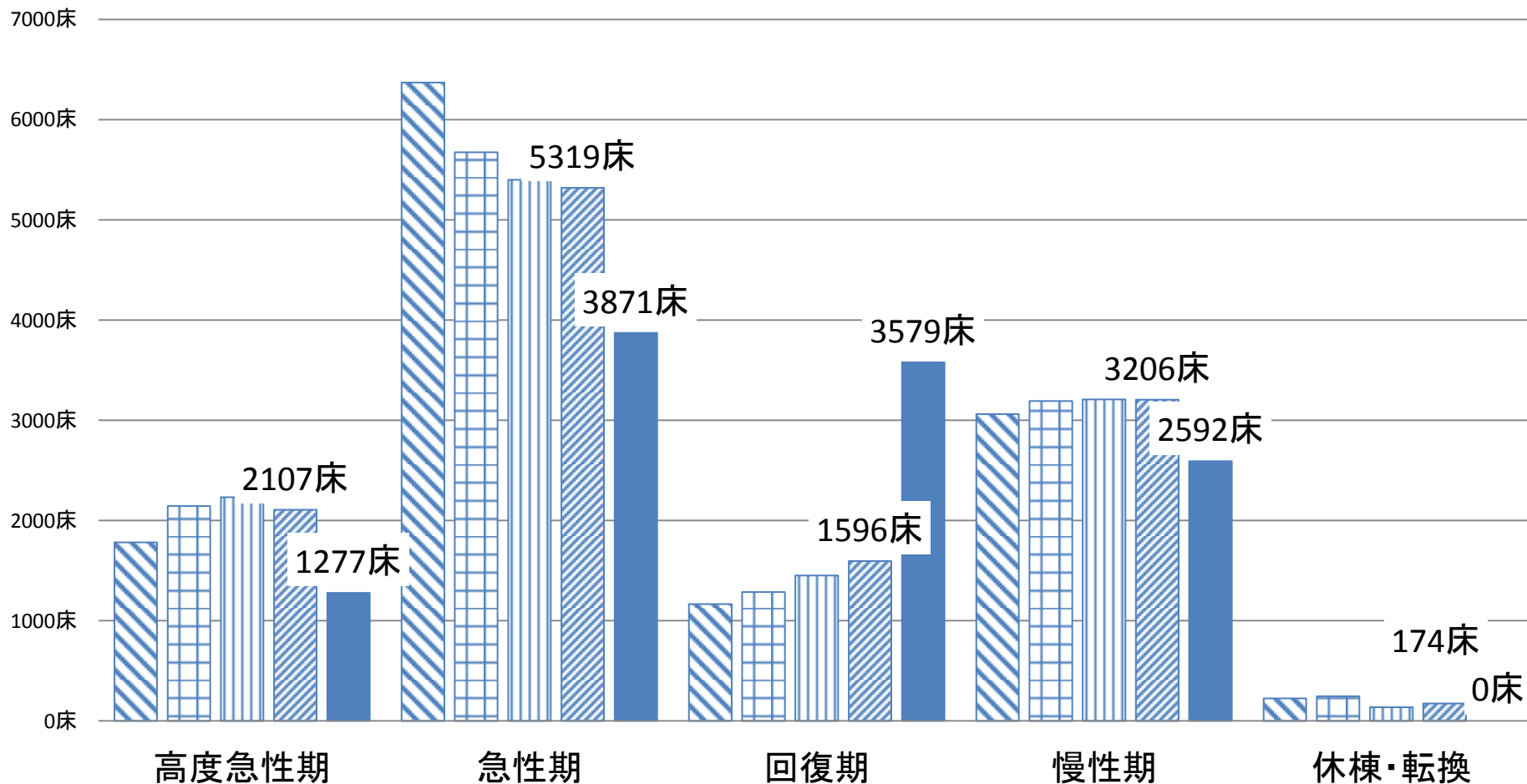
3. 幅広い手術の実施状況
4. がん・脳卒中・心筋梗塞等への治療状況
5. 重症患者への対応状況
6. 救急医療の実施状況
7. 急性期後の支援・在宅復帰への支援の状況
8. 全身管理の状況
9. 疾患に応じたリハビリテーション・  
早期からのリハビリテーションの実施状況
10. 長期療養患者の受入状況
11. 重度の障害児等の受入状況
12. 医科歯科の連携状況



# 病床機能報告結果

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・轉換	合計
2014年病床機能報告	1783床	6370床	1166床	3062床	226床	12607床
2015年病床機能報告	2144床	5674床	1285床	3191床	247床	12541床
2016年病床機能報告	2232床	5399床	1452床	3208床	138床	12429床
2017年病床機能報告	2107床	5319床	1596床	3206床	174床	12402床
【参考】2025年推計値	1277床	3871床	3579床	2592床	0床	11319床

# 病床機能報告結果



■ 2014年病床機能報告 
 ■ 2015年病床機能報告 
 ■ 2016年病床機能報告  
■ 2017年病床機能報告 
 ■ 【参考】2025年推計値

# 今回の機能区分の課題意識

## <病床機能報告の4機能>

- **主観的**な区分  
—各医療機関の自主的な選択に依拠



- **病棟を単位**とした区分  
—各医療機関の経営判断に用いやすい



## <地域医療構想の4機能>

- **客観的**な基準  
—診療報酬点数（医療資源投入量）に応じた区分

- **日々の患者を単位**とした区分  
—同じ病棟にいても、日ごとに区分が変わる



地域医療構想の客観的な基準を、  
「日々の患者を単位とした区分」から「病棟を単位とした区分」に置き換えられれば、  
「**客観的**」かつ「**病棟を単位とする**」区分基準ができる。



この基準によって地域の病棟や医療機関を整理することで、  
地域の中でどのような役割分担が行われているのかを可視化

# 機能区分の枠組み

- 「ICU→高度急性期」「回復期リハ病棟→回復期」「療養病棟→慢性期」など、**どの医療機能と見なすが明らかな入院料の病棟**は、当該医療機能として扱う。
- 特定の医療機能と結びついていない**一般病棟・有床診療所の一般病床・地域包括ケア病棟（周産期・小児以外）**を対象に、具体的な機能の内容に応じて客観的に設定した**区分線1・区分線2**によって、高度急性期/急性期/回復期を区分する。
- 特殊性の強い周産期・小児・緩和ケアは切り分けて考える。

4 機能	大区分					
	主に成人			周産期	小児	緩和ケア
高度急性期	救命救急 ICU SCU HCU	一般病棟 有床診療所の一般病床 地域包括ケア病棟	MFICU NICU GCU	PICU	小児入院医療管理料1	
急性期			産科の一般病棟 産科の有床診療所	小児入院医療管理料2,3 小児科の一般病棟7:1	緩和ケア病棟 (放射線治療あり)	
回復期	回復期 リハビリ病棟			小児入院医療管理料4,5 小児科の一般病棟7:1以外 小児科の有床診療所		
慢性期	療養病棟 特殊疾患病棟 障害者施設等				緩和ケア病棟 (放射線治療なし)	

切り分け

具体的な機能に応じて区分線を引く

## 機能区分の基準の観点

- ① 病床機能報告のうち、主に「具体的な医療の内容に関する項目」のデータの中から、**外科的治療・内科的治療・全身管理等の幅広い診療内容を加味して基準を構成。**
- ② 区分線1のしきい値は、**救命救急入院料やICUの大半が、高度急性期に区分される程度とする。**
- ③ 区分線2のしきい値は、**一般病棟7:1の大半が、高度急性期・急性期に区分される程度とする。**
- ④ 区分線1・2を設定した結果、**高度急性期・急性期・回復期の1日あたり入院患者数が、「埼玉県地域医療構想における現在（2013年）の需要推計」との間に大きな齟齬がないか確認する。**

ただし、実際には各病棟にはさまざまな病期の患者が混在する中で、病棟単位での集計結果に応じて区分するため、ある病棟が、わずかな機能の差によって、「急性期の病棟」に区分されたり「回復期の病棟」に区分されたりし、それに応じて「急性期の病棟の病床数」も大きく変わる。

**区分線には「絶対の閾値」があるわけではなく、ある程度の幅をもたせて考えることが必要。**

## 高度急性期・急性期の区分（区分線1）の指標

○救命救急やICU等において、特に多く提供されている医療

- A：【手術】全身麻酔下手術
- B：【手術】胸腔鏡・腹腔鏡下手術
- C：【がん】悪性腫瘍手術
- D：【脳卒中】超急性期脳卒中加算
- E：【脳卒中】脳血管内手術
- F：【心血管疾患】経皮的冠動脈形成術（※）
- G：【救急】救急搬送診療料
- H：【救急】救急医療に係る諸項目（☆）
- I：【救急】重症患者への対応に係る諸項目（☆）
- J：【全身管理】全身管理への対応に係る諸項目（☆）

※…診療報酬上の入院料ではなくデータから特定がしにくいCCUへの置き換えができなかったこと、経皮的冠動脈形成術の算定が一般病棟7:1よりもICU等に集中していることによる。

☆…病床機能報告のデータ項目のうち、救命救急やICU等で算定が集中しているものに限定。

→これらの医療内容に関する稼働病床数当たりの算定回数を指標に用い、しきい値を設定。

## 急性期・回復期の区分（区分線2）の指標

○一般病棟7:1において多く提供されている医療

- K：【手術】手術
- L：【手術】胸腔鏡・腹腔鏡下手術
- M：【がん】放射線治療
- N：【がん】化学療法
- O：【救急】救急搬送による予定外の入院

○一般病棟や地域包括ケア病棟で共通して用いられている指標

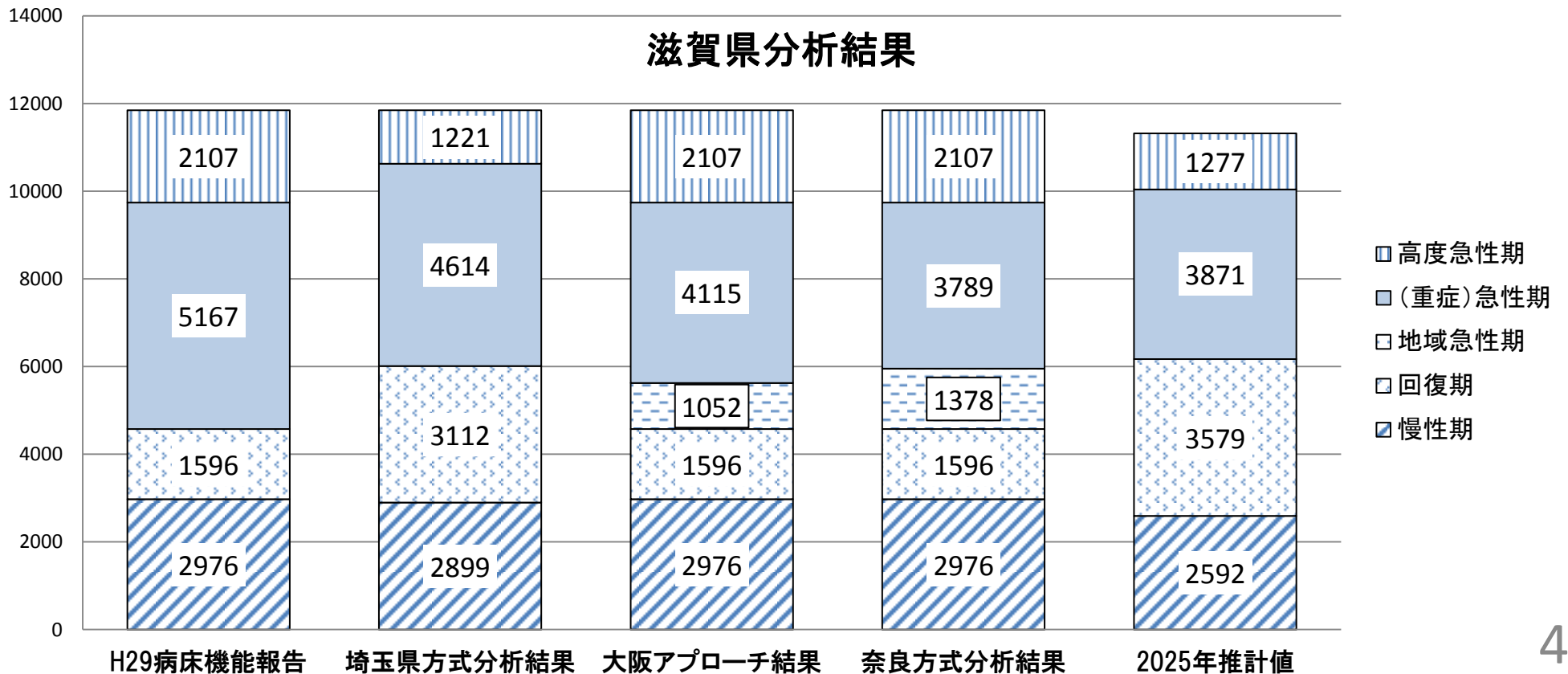
- P：【重症度、医療・看護必要度】  
基準（「A得点2点以上かつB得点3点以上」「A得点3点以上」「C得点1点以上」）を満たす患者割合

→これらの医療内容に関する稼働病床数当たりの算定回数等を指標に用い、しきい値を設定。



# 定量的な基準による分析結果

	データ元	区分	指標	補足
埼玉県	病床機能報告	高度急性期 急性期	手術、がん・脳卒中、心血管疾患などの治療、救急医療、全身管理、重要度	高度急性期・急性期と急性期・回復期に指標のよる区分線を設定 周産期、小児、緩和ケアは切り分けて検討
大阪府	病床機能報告 アンケート	急性期	手術、化学療法、救急医療、呼吸心肺監視	急性期を(重症)急性期と地域急性期に分類
奈良県	病床機能報告	急性期	手術、緊急入院	急性期を重症急性期と軽症急性期に分類



# 【滋賀県における今年度の取組】

# 令和元年度における調整会議について

- ◆ 圏域毎の課題について引き続き協議を行うとともに、今年度は下記の内容についても議論を行う
- 1. 公立・公的医療機関における具体的対応方針の評価検証
- 2. 県単位の地域医療構想調整会議の設置
- 3. 外来医療計画における協議

→2025年に向けて、病床機能の分化・連携及び地域包括ケアシステムの充実を図る

# 滋賀県における県単位の調整会議(案)

## ➤ 構成員

- 県医師会、郡市医師会(各圏域調整会議の座長)、病院(大学病院、公立・公的病院、私立病院)、歯科医師会、薬剤師会、看護協会、保険者協議会、各保健所

## ➤ 開催時期：令和元年10月～11月頃(予定)

## ➤ 協議内容

- 県単位の調整会議の先進事例について
- 調整会議の運営方針について
- 調整会議の進捗状況について 等

# 「外来医療計画」について

# 地域における外来医療機能の不足・偏在等への対応（課題と方針）

## 基本的な考え方

- 外来医療については、無床診療所の開設状況が都市部に偏っており、また、医療機関間の連携の取組が、個々の医療機関の自主的な取組に委ねられている等の状況を踏まえると、（１）外来機能に関する情報を可視化し、（２）その情報を新規開業者等へ情報提供するとともに、（３）地域の医療関係者等において外来医療機関間での機能分化・連携の方針等について協議を行うことが必要である。

## 対策のコンセプト

### （１）外来医療機能に関する情報の可視化

- 医師偏在の度合いが指標により示されることにより、地域ごとの外来医療機能の偏在・不足等の客観的な把握が可能になる。

### （２）新規開業者等への情報提供

- 可視化された情報を、新たに開業しようとしている医療関係者等が自主的な経営判断を行うに当たっての有益な情報として提供する。

### （３）外来医療に関する協議の場の設置

#### ○ 可視化する情報の内容の協議

・可視化する情報の内容について、より詳細な付加情報（地域ごとの疾病構造・患者の受療行動等）を加えたり、機微に触れる情報（患者のプライバシー・経営情報等）を除いたりといった対応のために、地域の医療関係者等が事前に協議を行い、より有益な情報とする。

#### ○ 地域での機能分化・連携方針等の協議

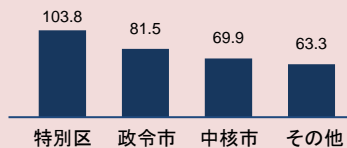
・充実が必要な外来機能や充足している外来機能に関する外来医療機関間の機能分化・連携の方針等（救急医療提供体制の構築、グループ診療の推進、医療設備・機器等の共同利用等）について地域の医療関係者等と協議を行い、地域ごとに方針決定できるようにする。

上記の協議については、地域医療構想調整会議を活用することができる。

## 現状

- 外来患者の約6割が受診する**無床診療所は、開設が都市部に偏っている。**
- また、地域における救急医療提供体制の構築、グループ診療の推進、放射線装置の共同利用等の**医療機関の連携の取組が、**個々の医療機関の**自主的な取組に委ねられている。**

人口10万人対無床診療所数

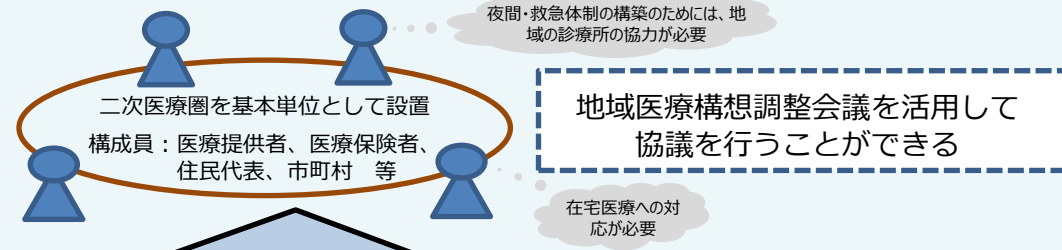


(二次医療圏別)

上位	1位：東京都・区中央部	248.8
	2位：大阪府・大阪市	123.1
下位	2位：北海道・遠紋	32.9
	1位：北海道・根室	26.5

## 制度改革

### 外来医療に関する協議の場を設置



### 医師偏在の度合いを示す指標の導入

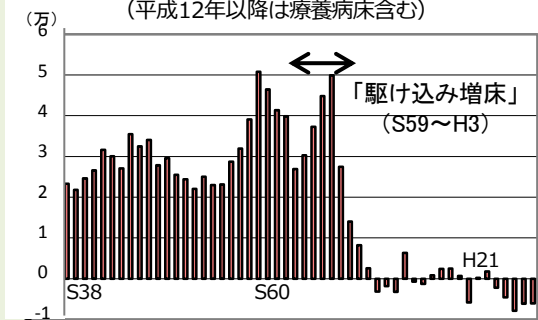
**地域ごとの外来医療機能の偏在・不足等**の客観的な把握が可能

- **外来医療機能に関する情報を可視化**するため、地域の関係者が**提供する情報の内容**（付加情報の追加、機微に触れる情報の削除等）**について協議**
- 救急医療提供体制の構築、グループ診療の推進、医療設備の共同利用等の、**地域における外来医療機関間の機能分化・連携の方針についても協議**

## 無床診療所の開業規制を行う場合の課題

- ・ **自由開業制との関係**（現行制度上、医師免許は開業免許と位置付けられており、憲法で保障された営業の自由との関係の整理が必要）
- ・ **国民皆保険との関係**（国民皆保険を採用する我が国においては、保険上の制限も実質上の開業制限）
- ・ **雇入れ規制の必要性**（開業規制を行うのであれば、雇入れ規制が必要であるが、これは事実上困難）
- ・ **新規参入抑制による医療の質低下への懸念**（新規参入がなくなれば、医療の質を改善・向上するインセンティブが低下する懸念）
- ・ **駆け込み開設への懸念**（病床規制を導入した際は、S59～H3の間に238,916床増床）

【参考】一般病床数の増加数の年次推移  
（平成12年以降は療養病床含む）



# 外来医師多数区域の設定について

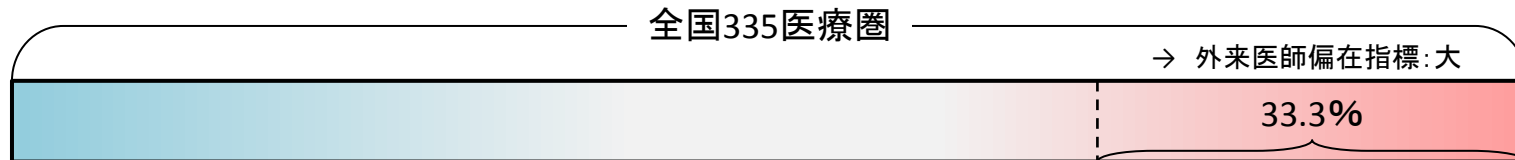
## 【論点】

- 外来医師偏在指標を元に、外来医師多数区域を設定し都道府県等に提供するに当たって、多数区域をどのように考えるか。

## ＜外来医師多数区域の基本的な考え方＞

- 二次医療圏ごとに、外来医師偏在指標を集計し、  
・ 上位33.3%を外来医師多数区域と設定し、都道府県等に情報提供を行うことで、新規開業者等における自主的な行動変容を促し、偏在是正につなげていくことが必要ではないか。

(外来医師偏在指標における外来医師多数区域の設定イメージ)



## 【対応】

- 外来医療の偏在指標については、「新たな医師偏在指標」を参考に、より外来医療の実態を踏まえた指標とするために①人口構成等、②昼夜間を含めた流出入、④医師偏在の種別、⑤医師の労働時間等を考慮したものとなっており、新たな医師偏在指標との関連が高い。
- そのため、外来医師偏在指標についても、新たな医師偏在指標と同様に上位33%を多数区域として設定してはどうか。



# 滋賀県内の圏域別の状況

第66回社会保障審議会医療部会  
(H31.4.24)

圏域名	外来医師偏在指標	全国順位 (335二次医療圏中)	区 分
大 津	125.1	34位	外来医師『多数』区域
湖 南	108.1	85位	外来医師『多数』区域
甲 賀	75.0	288位	
東近江	89.2	215位	
湖 東	93.6	185位	
湖 北	90.1	213位	
湖 西	82.1	244位	

# 地域における外来医療機能の不足・偏在等への対応

## 経緯

- 外来医療については、無床診療所の開設状況が都市部に偏っていること、診療所における診療科の専門分化が進んでいること、救急医療提供体制の構築等の医療機関間の連携の取組が、個々の医療機関の自主的な取組に委ねられていること、等の状況にある。
- それを踏まえ、「医療従事者の需給に関する検討会 医師需給分科会 第2次中間取りまとめ」において、**外来医療機能に関する情報の可視化、外来医療機能に関する協議の場の設置**等の枠組みが必要とされ、また、医療法上、医療計画において外来医療に係る医療提供体制の確保に関する事項（以下、「**外来医療計画**」）が追加されることとなった。

## 外来医療計画の全体像

### 外来医療機能に関する情報の可視化

- 地域ごとの外来医療機能の偏在・不足等の客観的な把握を行うために、診療所の医師の多寡を**外来医師偏在指標**として可視化。

$$\text{外来医師偏在指標} = \frac{\text{標準化診療所医師数}}{\left[ \frac{\text{地域の人口}}{10万} \times \text{地域の標準化受療率比} \right] \times \text{地域の診療所の外来患者対応割合}}$$

※ 医師偏在指標と同様、医療ニーズ及び人口・人口構成とその変化、患者の流入・流出、へき地などの地理的条件、医師の性別・年齢分布、医師偏在の単位の5要素を考慮して算定。

- 外来医師偏在指標の上位33.3%に該当する二次医療圏を、**外来医師多数区域**と設定。

### 新規開業希望者等に対する情報提供

- 外来医師偏在指標及び、外来医師多数区域である二次医療圏の情報を、医療機関のマッピングに関する情報等、開業に当たって参考となるデータと併せて公表し、**新規開業希望者等に情報提供**。

※ 都道府県のホームページに掲載するほか、様々な機会を捉えて周知する等、新規開業希望者等が容易に情報にアクセスできる工夫が必要。また、適宜更新を行う等、質の担保を行う必要もある。

※ 新規開業者の資金調達を担う金融機関等にも情報提供を行うことが有効と考えられる。

### 外来医療機能に関する協議及び協議を踏まえた取組

- 地域ごとにどのような外来医療機能が不足しているか議論を行う、**協議の場を設置**。  
※ 地域医療構想調整会議を活用することも可能。 ※ 原則として二次医療圏ごとに協議の場を設置することとするが、必要に応じて市区町村単位等での議論が必要なものについては、別途ワーキンググループ等を設置することも可能。
- **少なくとも外来医師多数区域においては、新規開業希望者に対して、協議の内容を踏まえて、在宅医療、初期救急（夜間・休日の診療）、公衆衛生（学校医、産業医、予防接種等）等の地域に必要とされる医療機能を担うよう求める。**

- 外来医療計画の実効性を確保するための方策例

- ・ 新規開業希望者が開業届出様式を入手する機会を捉え、地域における地域の外来医療機能の方針について情報提供
- ・ **届出様式に、地域で定める不足医療機能を担うことへの合意欄を設け**、協議の場で確認
- ・ 合意欄への記載が無いなど、**新規開業者が外来医療機能の方針に従わない場合、新規開業者に対し、臨時的協議の場への出席要請を行う**
- ・ 臨時的協議の場において、構成員と新規開業者で行った**協議内容を公表** 等

## 今後の検討課題

- 外来医療機能の偏在の可視化等による新規開業者の行動変容への影響について、検証を行っていく。
- 十分な効果が得られない場合には、無床診療所の開設に対する新たな制度上の仕組みについて、法制的・施策的な課題を整理しつつ、検討が必要。

# 医療機器の効率的な活用等について

- 経緯**
- 「医療従事者の需給に関する検討会 医師需給分科会 第2次中間取りまとめ」において、**医療設備・機器等の共同利用等の、医療機関間での連携の方針等について協議を行い、地域ごとに方針決定すべきである**、とされ、医療法上も医療施設に備えた施設・設備の効率的な活用に関する事項について、協議の実施及び協議結果の公表を行うこととされた。
  - 今後、人口減少が見込まれる中、医療機器について共同利用の推進等によって効率的に活用していくべきであり、医療機器の共同利用のあり方等について、情報の可視化や新規購入者への情報提供を有効に活用しつつ、必要な協議を行う必要がある。

## 医療機器の効率的な活用のための対応

### 医療機器の配置状況に関する情報の可視化

- 地域の医療ニーズを踏まえ、地域ごとの医療機器の配置状況を**医療機器の種類ごとに指標化**し、可視化。

$$\text{調整人口当たり台数} = \frac{\text{地域の医療機器の台数}}{\frac{\text{地域の人口}}{10万} \times \text{地域の標準化検査率比}}$$

- ※ CT、MRI、PET、放射線治療（リニアック及びガンナイフ）、マンモグラフィに項目化してそれぞれ可視化。
- ※ 医療機器のニーズが性・年齢ごとに大きな差があることから、地域ごとの人口構成を踏まえて指標化。

### 医療機器の配置状況に関する情報提供

- 医療機器の配置状況に関する指標に加えて、**医療機器を有する医療機関についてマッピングに関する情報や、共同利用の状況等について情報を公表**。
- ※ 医療機関の経営判断に資するような、医療機器の耐用年数や老朽化の状況等についても、適切な情報を提供できるよう検討。

### 医療機器の効率的活用のための協議

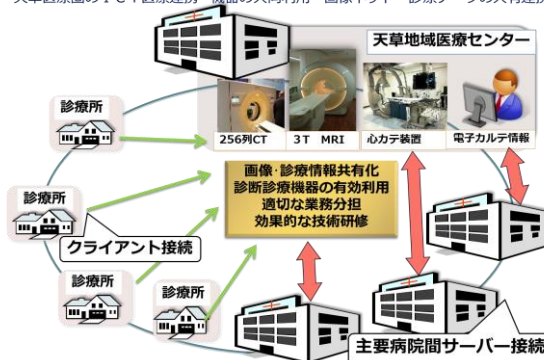
- 医療機器の効率的活用のための**協議の場を設置**。  
※ 基本的には、外来医療機能の協議の場を活用することが想定されるが、医療機器の協議のためのワーキンググループ等を設置することも可能。
- 医療機器の種類ごとに**共同利用の方針について協議を行い、結果を公表**。  
※ 共同利用については、画像診断が必要な患者を、医療機器を有する医療機関に対して患者情報とともに紹介する場合を含む。
- 共同利用の方針に従い、医療機関が医療機器を購入する場合や、当該機器の共同利用を新たに行う場合には、**共同利用に係る計画（以下、「共同利用計画」）を作成し、定期的に協議の場において確認**。
- 協議に当たっては医療機器の効率的な活用という観点だけでなく、  
・CT等放射線診断機器における医療被ばく  
・診断の精度  
・有効性  
等の観点も踏まえ、適切に医療機器が使用されているかについて、検討が必要。

### 医療機器を二次医療圏内で効率的に共同利用している例 「あまくさメディカルネット」

- 地域の医療機関をネットワークで繋ぐことにより、共同利用施設のCT、MRI等の医療機器を共同利用施設の医師と同じ感覚で使用可能。
- 天草医療圏に存する80診療所のうち61診療所（76.3%）が加入。
- 必要に応じて、共同利用施設の専門医と同じ画像を見ながら、治療方針等も相談可能。

#### 『あまくさメディカルネット』

天草医療圏のI C T医療連携 機器の共同利用・画像ネットワーク・診療データの共有連携



天草地域医療センター放射線部技師長 緒方隆昭氏より提供資料を改変

# 外来医療計画において記載すべき内容

- ① 外来医師偏在指標を用いた外来医師多数区域の設定(可視化)
- ② 新規開業者への①等に関する情報提供
- ③ 外来医療に関する協議の場の設置
- ④ 医療機器の効率的な活用に係る計画



- ア 医療機器の配置状況に関する情報※
- イ 医療機器の保有状況等に関する情報※
- ウ 区域ごとの医療機器の種類ごとに共同利用の方針協議・決定
- エ 共同利用計画の記載事項とチェックのプロセス

※厚生労働省から医療機器に関する情報を各都道府県に提供する

# 滋賀県外来医療計画に関する検討方針(案)

## ①協議の場の設定について

○地域医療構想調整会議における協議を基本とする。

## ②協議の場において議論すべき内容について

○外来医師多数区域（大津、湖南）

→不足している外来医療機能について協議し、新規開業希望者に対して地域に必要とされる医療機能を担うよう求める。

不足する医療機能・・・在宅医療、初期救急、公衆衛生等

(診療科別の医師の偏在の課題については厚生労働省において議論中であることに留意が必要)

○外来医師多数区域以外（甲賀、東近江、湖東、湖北、湖西）

→不足している外来医療機能について大まかな方針について協議（確認）

# 滋賀県外来医療計画に関する検討方針(案)

## ③医療機器の共同利用の方針について

- 対象となる医療機器…CT、MRI、PET、放射線治療、マンモグラフィ
- 医療機器の効率的な利用に関する検討についても各圏域毎の地域医療構想調整会議を協議の場とし、医療機器の共同利用の方針および共同利用計画について協議を行い、結果をとりまとめ公表する。
- 共同利用の方針としては、医療機関が対象となる医療機器を購入する場合には、当該医療機器の共同利用にかかる計画を作成し、協議の場において確認を行うことを求める。
- 共同利用を行わない場合には、共同利用を行わない理由について協議の場で確認する。

→各圏域の共同利用計画については医療審議会においても共有する。

## 湖東圏域地域医療構想調整会議について

### (1)平成28～30年度 湖東圏域地域医療構想調整会議の概要

# 資料2

		日時	議題	参加者
平成28年度	第1回	平成29年 2月28日 (火) 13:30～ 15:00	(1) 議長の選出について (2) 滋賀県地域医療構想および調整会議について (3) 平成27年度病床機能報告結果について (4) 地域医療介護総合確保基金について (5) 彦根医療福祉推進センターの取り組みについて	16名
	第1回	7月26日 (水) 13:30～ 15:00	(1) 滋賀県保健医療計画の改定について (2) 平成28年度病床機能報告結果について (3) 平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)にかかる事業提案について (4) 医療介護の体制整備に係る協議の場について (5) その他 意見交換	16名
	第2回	12月1日 (金) 13:30～ 15:00	(1) 滋賀県保健医療計画の改定について (2) 2025年を見据えた医療と介護の提供体制について (3) その他 意見交換	19名
平成29年度	第3回	平成30年 2月23日 (金) 13:30～ 15:30	(1) 公的医療機関等2025プランについて (2) 湖東圏域における病床機能の分化・連携の推進について (3) 2025年度を見据えた医療と介護の供給体制について(在宅医療について) (4) 次年度の調整会議の予定について	18名

		日時	議題	参加者
平成30年度	第1回	平成30年 7月31日 (火) 15:00～ 17:00	(1) 平成29年度地域医療構想調整会議の概要および平成30年度の予定について (2) 平成29年度病床機能報告結果及び湖東圏域における病床機能の状況について (3) 平成31年度地域医療介護総合確保基金(医療分)にかかる事業提案について (4) 地域包括ケアシステムの推進について(情報提供)	22名
	第2回	12月26日 (水) 13:30～ 15:00	(1) 病床機能報告からみる湖東地域の医療提供体制について (2) 医療機関2025プランについて (3) 地域包括ケアシステムの推進に向けて	21名
	第3回	平成31年 2月18日 (月) 14:00～ 16:00	(1) 医療機関2025プランについて (2) 平成31年度地域医療介護総合確保基金(医療分)について (3) 地域包括ケアシステムの推進に向けて	21名

## (2)平成30年度湖東圏域地域医療構想調整会議のまとめ

### テーマ1 地域医療構想の実現に向けた、医療機関の方向性について ～医療機関2025プランの策定～

平成29年度策定

彦根市立病院

平成30年度策定

豊郷病院

彦根中央病院

友仁山崎病院

概要版は別紙

### テーマ2 病床機能の分化・連携の推進

○地域医療構想策定後に、各病院において病床転換が進んでおり、2025年に目指す病期別病床機能の推計数に近づきつつある。

○病床機能報告では、各病棟の現状機能を表すことは難しいという課題があった。他県で検討された定量的な基準による分析に、圏域の4病院の病床機能報告の数値を照らし合わせ分析した結果、急性期病棟に高度急性期や回復期の機能を提供をしている病棟があることがわかった。



# 平成30年度湖東圏域地域医療構想調整会議のまとめ

## テーマ3 地域包括ケアシステムの推進

- 湖東圏域の在宅医療の体制整備の取り組み状況と今後必要な取り組みについて整理し、共有した。
- 入退院支援については、入退院支援ルールの実用が定着し、切れ目のない入退院支援が提供されている。
- 3病院から訪問診療の提供が開始し、診療所のバックアップ体制が整備されてきている。
- 彦根医師会において、在宅看取りを推進するための診・診連携の体制整備が図られた。
- 訪問歯科診療の推進に向け、現状と課題を把握し、共有した。

## 令和元年度地域医療構想調整会議の計画

検討項目	検討内容
① 病床機能の分化・連携	5疾患5事業の現状と課題について協議 (がん 脳卒中 心疾患 糖尿病 肺炎 骨折 救急医療 小児救急 周産期等)
② 全世代地域包括ケアシステムの推進	分野ごとの現状と課題について把握 (精神保健 ・難病 ・小児在宅医療)
③ 在宅医療の提供体制の整備	各機関の取り組みの推進
④ 地域医療介護総合確保基金の活用	関係機関が基金を活用し、地域の課題の解決に向けた取り組みが展開できるよう協議する。
⑤ 周知・啓発	医療福祉関係者や住民に対して、地域医療構想の推進や医療機関等の取り組みについて周知する。

## 令和元年度地域医療構想調整会議の計画

開催時期	検討内容	関連する会議
第1回 8月7日	① 病床機能の分化・連携について ④ 地域医療介護総合確保基金の活用について ⑤ 地域医療構想・病院の取り組みについての啓発	病院情報交換会 9月
第2回 11月頃	① 病床機能の分化・連携について ② 全世代地域包括ケアの推進について ③ 在宅医療の提供体制の整備について ⑤ 地域医療構想・病院の取り組みについての啓発	病院情報交換会 12月頃
第3回 2月頃	② 全世代地域包括ケアの推進について ③ 在宅医療の提供体制の整備について ④ 地域医療介護総合確保基金の活用について	

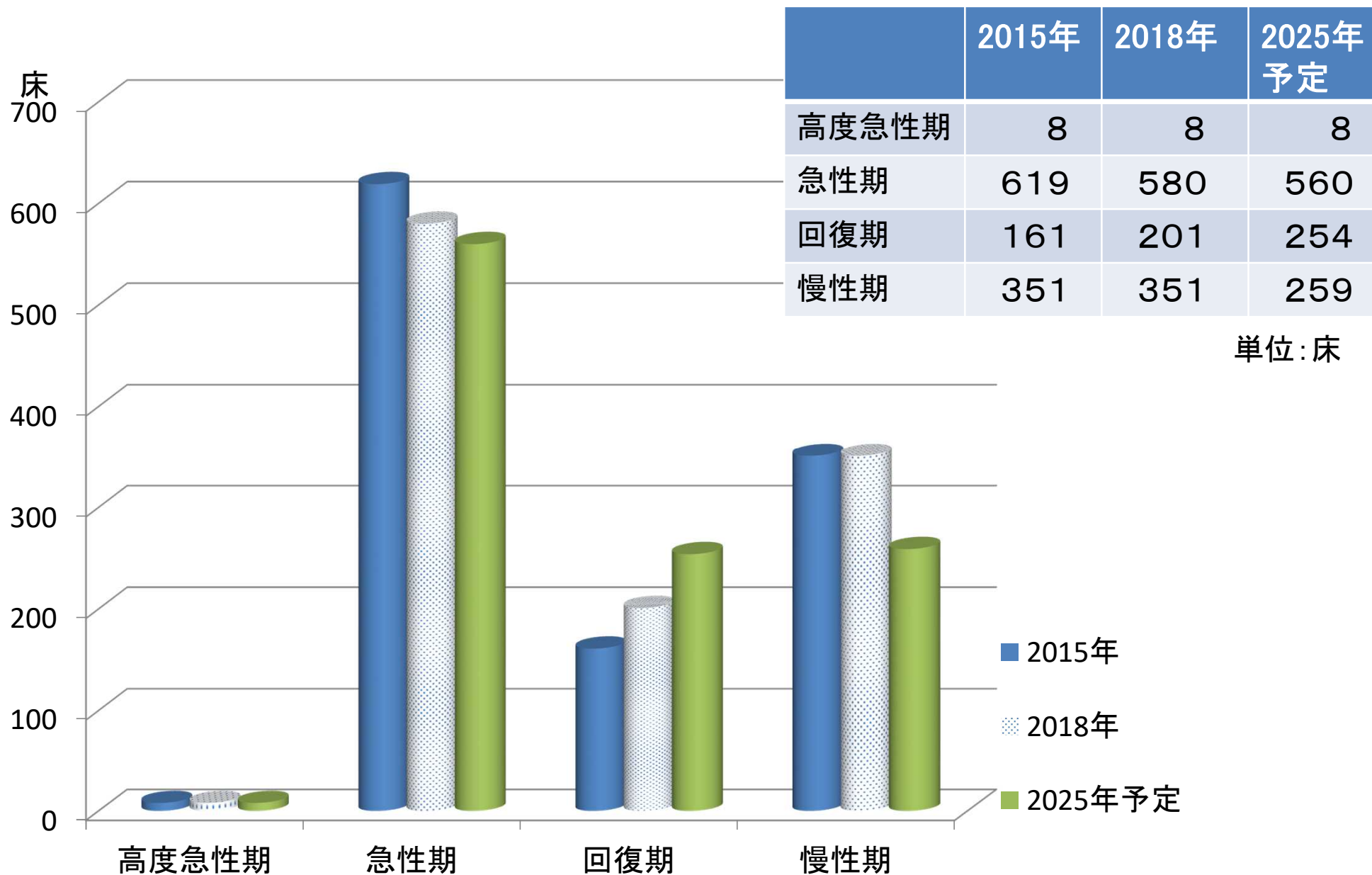
湖東圏域医療機関2025プラン

平成29～30年度策定

医療機関	診療機能の特徴						課題	今後担うべき役割	具体的な計画										今後の見込み	基金の活用		
	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟	その他の病床 内容			2017年					2025年								
									高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟				
彦根市立病院	○	○	◎		○	地域医療支援病院 災害拠点病院 地域がん診療連携拠点病院 周産期協力病院 重症難病拠点病院 在宅療養後方支援病院 救急告示病院 小児救急医療支援医療参加 結核10感染症4	①近隣病院との急性期機能の一部重複、急性期医療を受けた後の患者数の増加などから、現行体制を維持するべきか否かの検討が必要である。 ②急性期医療を受けた後の受け皿となる医療機関の整備に向け、当院の役割の再検討が必要である。 ③慢性的な医師不足のため、現行の病床数および機能が十分に活用できていない状況にあり、安定的な「医師確保」が喫緊の課題である。	①高度急性期機能の一翼を担う。 ②先進的・専門的な医療を提供する急性期機能を担う。 ③回復期機能の一翼を担う。 ④地域包括ケアシステムの構築に向けて、中心的な役割を果たす病床機能を担う。	8	374				62		8	333	41		42	・医療機関全体として病床利用率が低く、また休棟(42床)を有していることから、最適な病床規模について検討する。	地域包括ケア病棟の整備(H30)
彦根中央病院		○	○	○		在宅療養後方支援病院 救急告示病院	①すべての職種において人材不足。人材確保が当面の課題。 ②開院以来、48年が経過、各職種の世代交代が課題 ③看護職は中堅層の確保が課題 ④高度医療・急性期病院からの紹介により稼働率が変動するため連携や情報交換が必要 ⑤開設以来土日の診療実施。人材確保の上で困難な状況となっており、将来的には考えなおす必要がある。	①近隣医療機関と連携により、湖東圏域にて完結できる急性期から在宅への流れを保持する ②医療度があるために施設入所できず、在宅も困難な意識障害患者の対応として、医療療養病床の1病棟を障害者病棟棟へ検討。			44	40	262			44	40	202	介護医療院60	医療療養病棟から障害者病棟への転換	介護医療院の整備(H30)	
友仁山崎病院		○	○	○		重症難病協力病院 救急告示病院 在宅療養支援病院	①急性期は、消化器内科診療を中心としている。入院を必要とする消化器疾患患者が減少、入院期間の短縮等あり、急性期病棟の稼働が低下傾向。 ②湖東圏域の療養病棟が減少していく中、湖東圏域の療養病棟の不足もあり、今後療養病棟の必要性が高まっていくことが推測される。 ③高齢者の様々な病態を幅広く、しかも高いレベルで診療できる医師が不足しており、今後の慢性期医療の展開の大きな障害になるものと思われる。	①地域のニーズに柔軟に答え得る良質なケアミックス医療 ②内視鏡診療を中心とした質の高い消化器内科診療、低侵襲の消化器癌手術 ③リハビリを中心とした高齢者に対する整形外科診療 ④外来透析から入院透析までをカバーする包括的な透析医療 ⑤サブアキュート、ポストアキュートのいずれにも対応しうる質の高い回復期機能 ⑥ACPを重視した質の高い慢性期医療 ⑦在宅療養支援病院としての質の高い訪問診療、在宅医療			50	40	57	10		40	60	57		急性期から回復期への病床転換	在宅療養支援病院の整備(R1) 地域包括ケア病棟の整備(予定)	
豊郷病院		○	○	●		精神科 120床 認知症疾患医療センター 重症難病協力病院 救急告示病院	①急性期医療は近隣病院との役割分担を検討する時期が近づいている。 ②回復期機能は、合併症を持つ認知症患者の受入れや地域包括ケアシステムの中で急性増悪時の対応や”ときどき入院”体制を構築する必要がある。 ③精神機能の病棟の再編。	①精神科疾患及び認知症合併症対応の強みを活かした取り組み ②整形外科、リハビリ等の疾患対策と当院グループのサービスを活かした総合的な医療・介護サービスを提供 ③かかりつけ医としての役割を担うため、外来連院患者の在宅療養支援を強化し慢性疾患の重症化予防に取り組む。			105	81	32			105	113			・精神病棟の病棟編成	地域包括ケア病棟の整備(H30) 精神科の再編・整備(R2予定)	
有床診療所		○									38					38						
圏域合計									8	611	161	351	72		8	560	254	259	42			

# 病床機能報告から見た湖東圏域の病床の変化

資料3



単位：床

高度急性期	2015年	2018年	20205年予定	医療構想推計数
彦根市立病院	8	8	8	
圏域合計	8	8	8	82

急性期	2015年	2018年	20205年予定	医療構想推計数
彦根市立病院	382	333	333	
彦根中央病院	44	44	44	
友仁山崎病院	50	60	40	
豊郷病院	105	105	105	
有床診療所	38	38	38	
圏域合計	619	580	560	355

単位：床

回復期	2015年	2018年	20205年予定	医療構想推計数
彦根市立病院	0	41	41	
彦根中央病院	40	40	40	
友仁山崎病院	40	40	60	
豊郷病院	81	81	113	
有床診療所	0	0	0	
圏域合計	161	201	254	293

慢性期	2015年	2018年	20205年予定	医療構想推計数
彦根市立病院	0	0	0	
彦根中央病院	262	262	202	
友仁山崎病院	57	57	57	
豊郷病院	32	32	0	
有床診療所	0	0	0	
圏域合計	351	351	259	284

# 小児救急医療体制

資料4-1

滋賀県保健医療計画(第7次 平成30年3月策定)より

## (1) 小児救急医療

### 目指す姿

- ▶ 良質かつ適切な小児医療を受けることができる。
  - ・各二次および三次医療機関が担う医療機能が明確になり、機能分担と連携が強化されている。
  - ・初期、二次および三次医療機関の担う役割に合致した患者が受診している。

### 取組の方向性

- ア 小児救急医療に関する圏域の見直し
- イ 小児救急医の効率的な活用
- ウ 二次救急医療機関と開業小児科医師との連携
- エ 小児科を専門としない医師による初期小児救急医療の強化
- オ 保護者への啓発



## ア 小児救急医療に関する圏域の見直し

- 各二次保健医療圏における二次救急医療体制の維持が困難になっていることから、小児救急医療体制における圏域を見直し、周産期医療ブロックとの整合性を図り、次の4ブロックとします。
  - ①大津・湖西小児救急ブロック(大津保健医療圏・湖西保健医療圏)
  - ②湖南・甲賀小児救急ブロック(湖南保健医療圏・甲賀保健医療圏)
  - ③東近江小児救急ブロック(東近江保健医療圏)
  - ④湖東・湖北小児救急ブロック(湖東保健医療圏・湖北保健医療圏)
- ブロック化の円滑な推進や今後の小児救急医療体制の検討のため、関係機関(医療機関、消防、市町等)で構成する検討会を設置します。

## イ 小児救急医の効率的な活用

- 二次救急医療を維持するため、現在の二次救急医療体制を再編し、効率的に小児科医師を配置することを検討します。
- 二次救急医療体制の再編においては、日本小児科学会の「中核病院小児科・地域小児科センター登録事業」を参考に検討を進めます。
- 小児重症患者が発生した病院には小児救急医を緊急派遣して病院支援を行ったのち、小児集中治療医のもとへ患者を搬送する体制を新たに構築し、県内全ての小児に地域格差のない小児救急・集中治療を提供できるよう努めます。

二次・三次医療機関を受診した小児救急患者(1日平均・人)

圏域名	小児救急患者		うち入院患者	
	平成22年度	平成27年度	平成22年度	平成27年度
大津	27.8	31.1	2.4	2.2
湖南	73.2	47.1	4.0	3.9
甲賀	7.1	8.9	0.2	0.2
東近江	25.0	31.0	1.7	3.8
湖東	41.8	17.2	1.8	0.9
湖北	52.4	47.3	3.6	4.9
湖西	4.8	8.8	0.4	0.4
計	232.0	191.3	14.2	16.4

出典：「小児救急医療体制の取組状況調査」(厚生労働省)

# 小児救急医療の再編

平成31年1月小児救急医療体制検討部会

## 1. 再編の基本的な考え方

(1) 「二次・三次小児救急医療機関」を統合し、医療資源(小児科医)を集中させることにより、小児救急医療体制の充実および強化を図る。

※初期小児救急医療機関(診療所および休日急患診療所)は現行のまま

(2) 第7期保健医療計画に記載したとおり、日本小児科学会の「中核病院小児科・地域小児科センター登録事業」を基本に再編を行う。

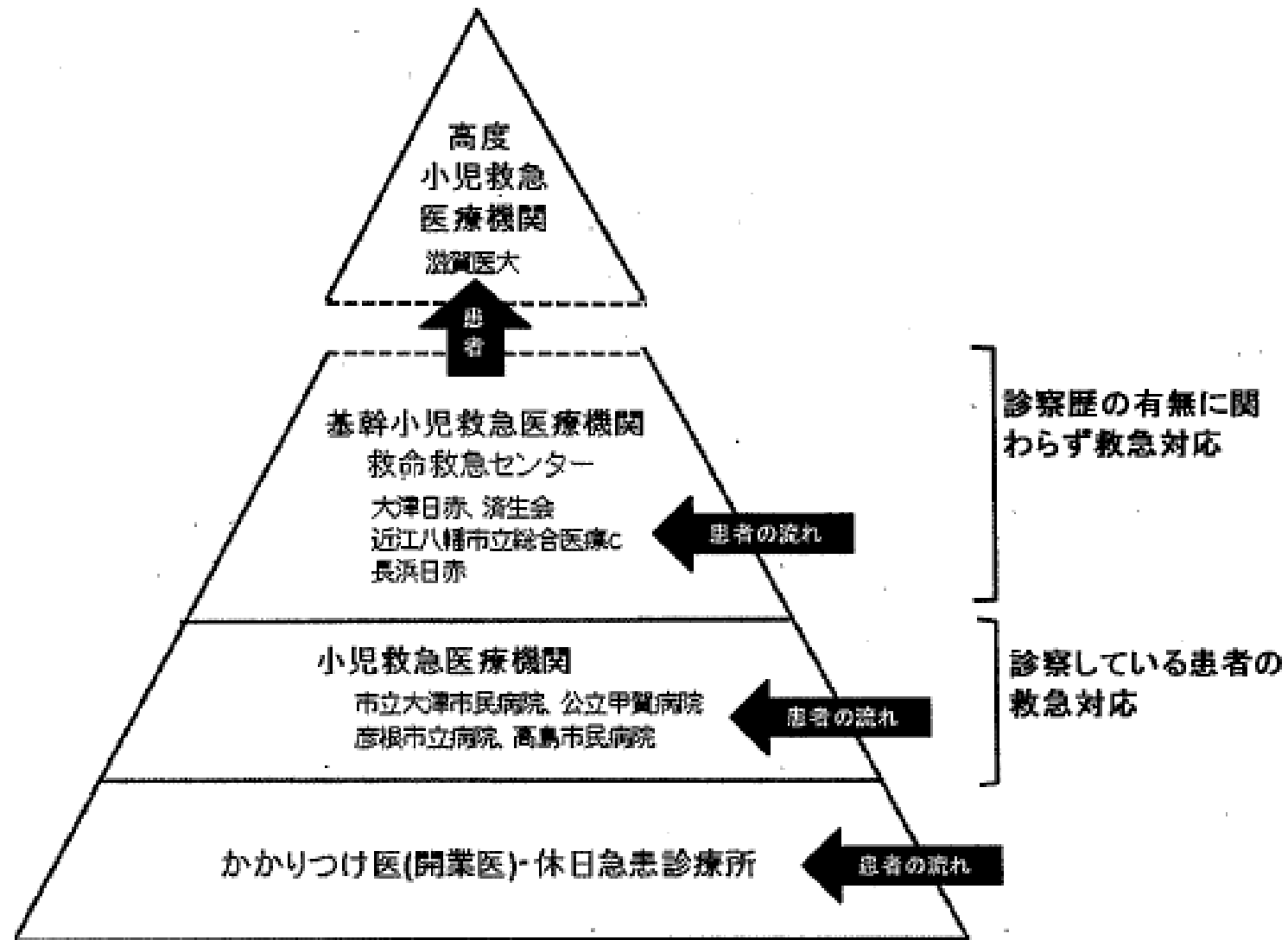
(3) 再編後の体制の開始は、平成32年4月1日(予定)



## 2. 再編の体制(案)

本県の名称(案)	小児科学会の分類	施設名	役割
高度小児救急医療機関	中核病院	滋賀医科大学医学部附属病院	・小児科医の安定供給 ・基幹病院で受入不可の患者の受入
基幹小児救急医療機関	地域小児科センター	大津赤十字病院 済生会滋賀県病院 近江八幡市立総合医療センター 長浜赤十字病院	・休日夜間の救急を受ける ・通常時間帯の救急を受ける ・通常時間帯の外来診療および入院診療
小児救急医療機関	地域振興小児科	市立大津市民病院 高島市民病院 公立甲賀病院 彦根市立病院	・通常時間帯の救急を受ける ・通常時間帯の外来診療および入院診療 ・診察している患者の救急対応(時間帯を問わず)

# 休日・夜間の体制(案)



## 彦根市立病院からの提案

県の再編案では、湖東湖北ブロックとなり、休日・夜間は、すべての救急患者が長浜赤十字病院での応需となる。湖東圏域ではさまざまな課題が想定される。

### 再編の背景と圏域の現状

- 小児救急医療の集約化の流れ
- 湖東圏域では休日・夜間救急受診患者の減少  
(少子高齢化 感染症の減少 小児科専門医の開業増加 休日急病診療所の患者増加)
- 小児救急医療に対する補助金の廃止の可能性

### 新たな体制に向けての彦根市立病院の体制について

- 平日昼間  
現状通り受け入れ (外来受診 救急搬送 他医療機関からの紹介)
- 平日夜間(17:15-19:00)、土曜日午前中、  
日曜・祝日の昼間(彦根市休日急病診療所の診療時間内)  
他医療機関や休日急病診療所からの紹介患者の受け入れ  
それ以外の救急患者は、基幹小児救急医療機関への誘導

### 更に現在の小児科医師数の5名が維持できれば

救急搬送患者の受け入れ(24時間)

# 周産期医療体制

滋賀県保健医療計画(第7次 平成30年3月策定)より

## 目指す姿

- ▶ 周産期医療体制を充実・強化し、妊婦およびその家族が安心・安全な出産を迎えることができる

## 取組の方向性

- (1) 周産期医療体制の充実・強化
- (2) NICU等の長期入院児後方支援病床の充実・強化
- (3) 地域における分娩取扱場所の確保
- (4) 災害時周産期医療体制の構築
- (5) ハイリスク妊産婦\*への診療体制の確保

図 3-3-9-2 滋賀県周産期医療提供体制（平成29年（2017年）4月現在）

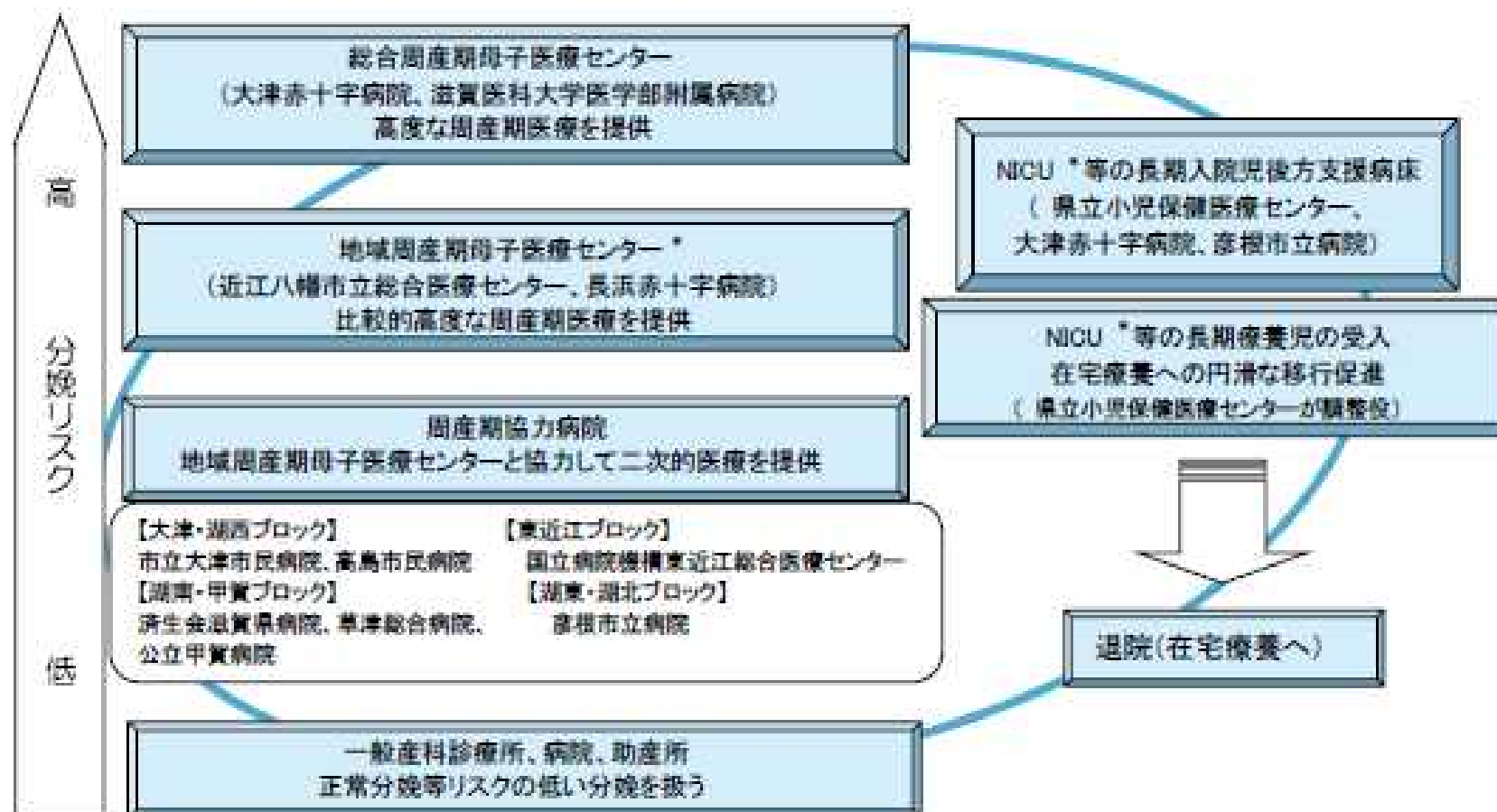


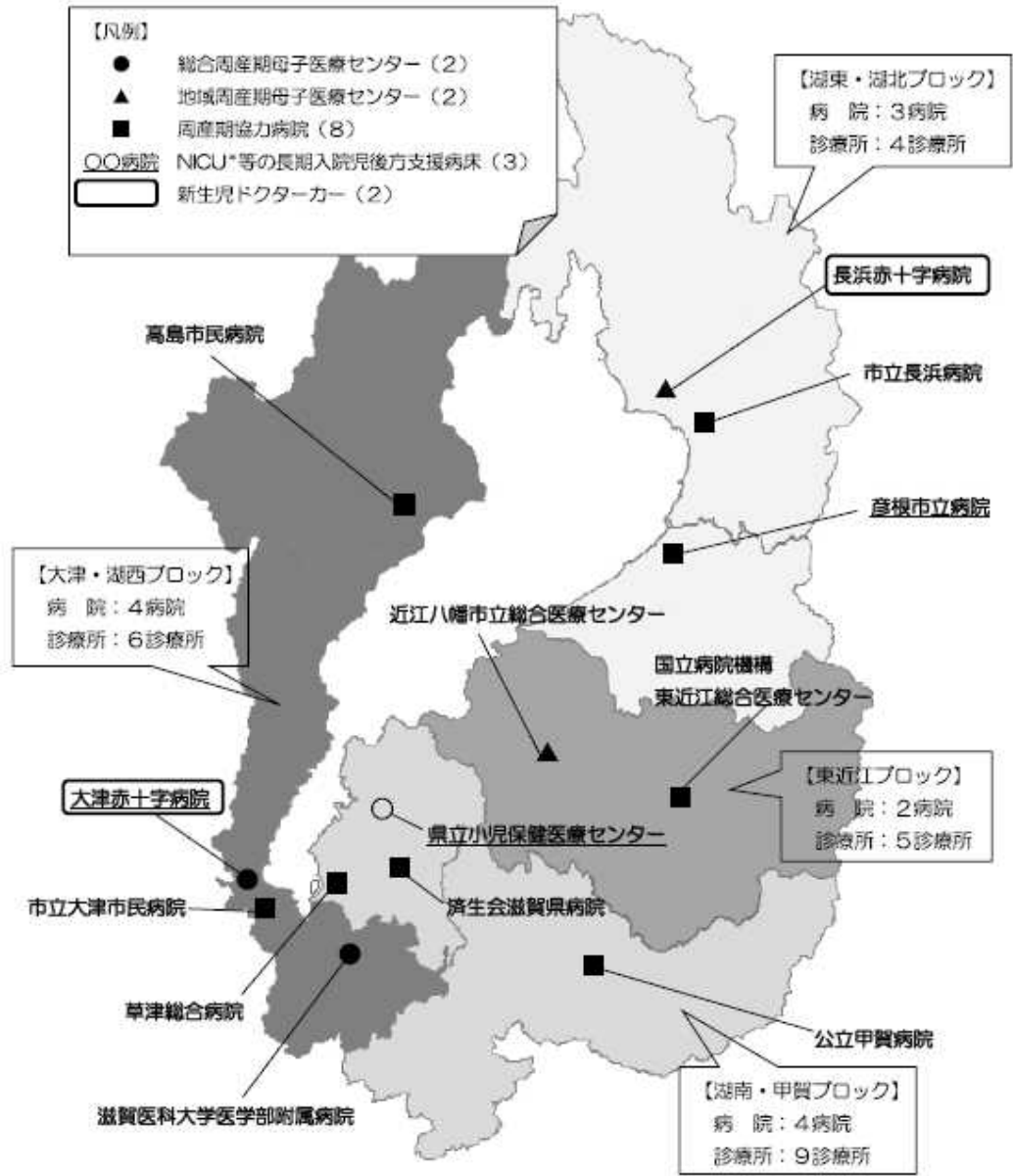
表 3-3-9-3 県内周産期関係病床数（平成29年（2017年）4月現在）

医療機関名	役割	MFICU* 病床数	NICU 病床数	人工換気装置 (侵襲的) 管 理可能病床数	GCU 病床数
大津赤十字病院	総合周産期母子 医療センター*	6	9	9	21
滋賀医科大学医学部附属病院	総合周産期母子 医療センター*	6	9	9	12
近江八幡市立総合医療センター	地域周産期母子 医療センター*	0	9	6	0
長浜赤十字病院	地域周産期母子 医療センター*	0	8	8	13
合 計		12	35	32	46

出典：周産期医療施設状況調査（平成29年）（滋賀県）



# 滋賀県の周産期医療体制

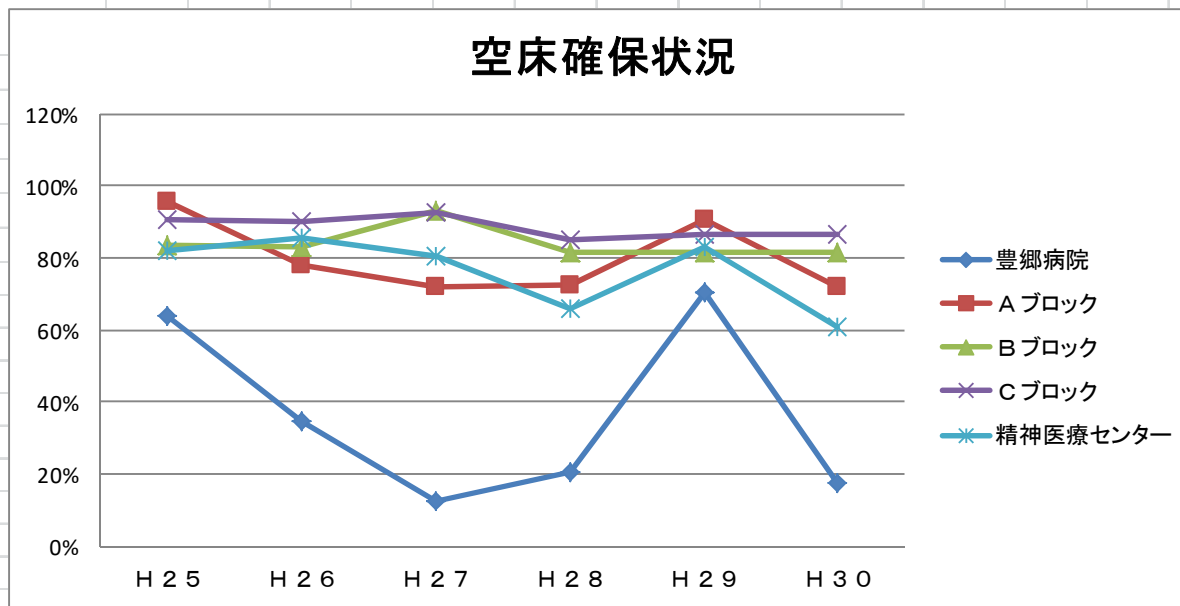


事業の名称		こころの医療センター（精神科病棟）整備事業	
事業の実施主体		公益財団法人豊郷病院	
対象圏域		湖東保健医療圏	
事業期間		令和2年4月1日～令和4年3月31日	
事業の分類	(大)	I 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業	
	(中)	(1) 医療提供体制の改革に向けた施設・設備の整備 等	
	(小)	5 病床の機能分化・連携を推進するための基盤整備	
事業の概要（積算）		<p>《事業概要》 精神科急性期治療病棟30床、精神一般病棟40床、精神療養病棟50床、精神科外来、認知症患者医療センター、在宅療養サポートセンター、厨房、OT室、デイケア室、その他付帯設備を併せ持つ5階建ての建物の建て替え</p> <p>《積算》 1,739,650,000円</p>	
現状と課題、事業の目的		<p>1. 湖東圏域での精神科病床を全国・滋賀県と比較すると、人口比10万人当たりの病床数では、全国平均（266.9床）の4分の1以下、滋賀県平均（169床）の2分の1以下の76.8床となっており、湖東圏域には当院の120床しかありません。また、当院においては保護室が6床と少なく、精神科救急医療システムの当番病院として保護室を必要とする患者を受け入れられないときもあります。</p> <p>また、平成30年の精神科救急医療の診療応需率は県全体の15.6%（340件）であり、精神科病床をもつ11病院の3番目に位置しています。他の精神科医療機関からの救急依頼は、県内全体の46.5%である20件を、一般科の医療機関からの救急依頼は県内全体の37.7%である32件を当院が受けています。当院は、一般病床をもつことで身体疾患をもつ精神科患者の転院依頼を圏域外から受けることもありますが、精神科病棟には酸素・吸引等の配管が少なく、個室も少ないことから患者が必要とする環境を準備できないこともあります。精神科医療の急性期を充実させるためには、保護室の増床、身体疾患に対応できる設備をもつ個室の整備は急務です。保護室・個室を増やすことで今以上に病病連携が促進でき、精神障害者や認知症患者で合併症を抱えている患者への対応を充実させることができます。</p> <p>2. 現在、60床の精神科急性期治療病棟には、急性期の患者と回復期の患者が混在しています。さらに、10代の発達障害患者と90代の行動心理症状を発症した認知症患者など世代も病名も多種多様となっています。急性期と回復期が混在している病棟では、患者にとっては適切な治療的環境とは言えない状況も発生しています。精神科も一般病棟と同様、病床を機能分化することで急性期と回復期のそれぞれの役割を明確にできると考えます。急性期は、病状の安定を目指すことを優先し、回復期においては、生活リハビリテーションとともに家族や地域支援者の教育的支援等による地域移行支援を充実しなければなりません。患者や家族に個別対応できる面会室やカンファレンス室、小集団活動のできるデイルームなど様々な機能を果たす環境整備が必要だと考えます。そのために急性期は精神科急性期治療病棟が中心となって担い、回復期は精神一般病棟がその機能を果たすことで精神科の回復期の機能の整備・充実を実現したいと考えます。</p> <p>3. 当院では平成18年から長期入院患者の地域移行支援に取り組んでおり、21名の患者が退院しています。現在、精神療養病棟には、身寄りもなく家もないという患者が数名入院しています。高齢化に伴い特別養護老人ホームや介護老人保健施設へ入所される場合もありますが、施設での対応に困り病院に再入院されることもあります。長期入院患者の地域移行支援を更に実践することで療養病床は今よりも10床減少できる見込みです。</p> <p>4. 今後は、新たな長期入院患者を生まないために、入院早期からの地域関係機関と連携した退院支援が必要です。退院後の支援として、再入院の予防や、重症化予防として精神科デイケアの役割は重要です。しかし、現在、精神科外来のデイケア室は狭く、十分な活動ができない状況にあります。退院後、デイケアに通院することで患者の病状変化が把握でき、社会生活に必要な他者との交流や就労につながる作業評価や訓練も実施できます。デイケアでの支援ががあれば地域定着にもつながると考えています。</p> <p>5. 今後、地域移行支援を進めるとともに地域でのサポート体制を継続するしくみを構築しなければ再入院や重症化の予防にはつながらないと考えています。精神科医療と地域包括ケアシステムの連携の取り組みのために、当院が実施している在宅療養サポートセンター（とよサポ）に精神科の相談対応ができるスタッフの配置が必要です。現在も地域包括支援センター、ケアマネジャー、訪問看護師、クリニック医師等から身体疾患、認知症、精神疾患等の相談を月間250件ほど受けています。主治医や外来看護師との連携も図りながら地域での療養生活を整えることで重症化予防、再入院予防に貢献しています。今後は、発達外来等との連携を強化し、この1～2年で入院患者が増加し今後も増えていくと予測されている発達障害者のサポート体制の構築を推進していくことが必要です。さらに一般科と同じように精神科の訪問診療を実施し在宅医療の充実を図ることで、全世代型の地域包括ケアシステムの構築につながると考えます。</p> <p>6. 入院時食事療養は大変重要で栄養管理を充実することで投薬効果、脳の活性化など患者の状態、改善、精神症状の緩和につながることから、厨房設備を併設して栄養教育サポート、適正なカロリー、栄養素、形態など患者にあった食事を在宅食事も含めた対応をリアルタイムで対応してまいります。</p>	
地域医療構想との関係性		<p>精神科病床においても病床を機能分化し、急性期機能、回復期機能、慢性期機能をもつそれぞれの病棟の役割を明確にしていく必要があります。急性期機能の充実で、緊急・救急への対応を充実することができます。一般病床をもつ当院では、身体疾患をもつ患者の精神症状発生時等、様々な医療機能をもつ病院との連携をさらに推進できます。また、病床機能分化することで、患者の病態に適切に対応できる体制を整備しやすくなり、病棟間の連携を推進することで地域移行を推進することにつながります。また、回復期機能の強化では、患者の生活リハビリテーションの充実、家族や地域支援者の教育的支援につながります。特に増加が見込まれる発達障害患者に対しては、10代の患者に対して成長を視野に入れた適切な対応が望まれます。入院を長期化することなく切れ目ない医療連携システムの構築につながっていくと考えます。</p> <p>また、精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの推進が求められています。当院では2019年4月から認知症対象の地域包括ケア病棟を立ち上げたことで、認知症患者の困りごとを早期に発見して早期に介入することができ、地域包括ケアシステムの充実につながっていると実感しています。2016年4月に立ち上げた在宅療養サポートセンターに認知症看護認定看護師を配置することで、医療・介護サービス提供者間の連携強化につながりました。在宅等療養患者の急変時に対応できる病・診・介護連携、在宅医療・介護サービスに関する住民理解の推進にもつながっています。退院後も医療・介護従事者がサポートチームとなって連携を継続することで、患者・家族のみならず介護サービス担当者にも支援が継続できます。このシステムを精神疾患にも応用することで精神疾患・発達障害者への早期対応、早期介入が実現できると考えています。当院がすでに実施している精神障害者・認知症の訪問看護に加え、精神科の訪問診療を開始することで、在宅医療の推進につながります。一般科と精神科の訪問診療ができることで、地域においても合併症を抱えている精神障害者や認知症患者への対応を充実させることができます。精神障害者や認知症をもつ在宅療養患者の急変時の対応やレスパイト入院の受け入れができる当院の強みを活かしてこれからの地域包括ケアシステムの充実に貢献できると考えます。</p>	
事業の成果・効果		<p>精神科病棟や精神科病院という名称ではなく「こころの医療センター」という名称にすることで、住民の受診や入院への抵抗感は少なくなると考えます。在宅療養サポートセンターがあることで、患者・家族だけでなく、患者を支える支援者の相談窓口となり早期発見・早期対応につながります。必要時に入院を繰り返しながらも地域でサポートを受けながら療養生活を継続できることを目指せると考えます。精神障害者、発達障害者、認知症の方が自助・互助・共助・公助を受けてその人らしく地域での生活を継続できることに貢献できると考えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>急性期治療病棟の整備と、一般病棟の退院支援で、平均在院日数を減らし、病棟稼働率を上昇させることができる。</li> <li>デイケアの整備と在宅支援によって、在宅復帰率を向上させることができる。</li> <li>入院早期からの退院支援により、新たな長期入院患者の増加を防ぐことができる。</li> <li>家族・地域支援者の継続サポートにより再入院を防止し地域での生活を継続できる。</li> </ul>	
達成目標	目標とする事項	急性期治療病棟稼働率	急性期病棟在宅復帰率
	現在値	79.9%	62.4%以上
	目標数値	90%	65%以上

# 資料5-2

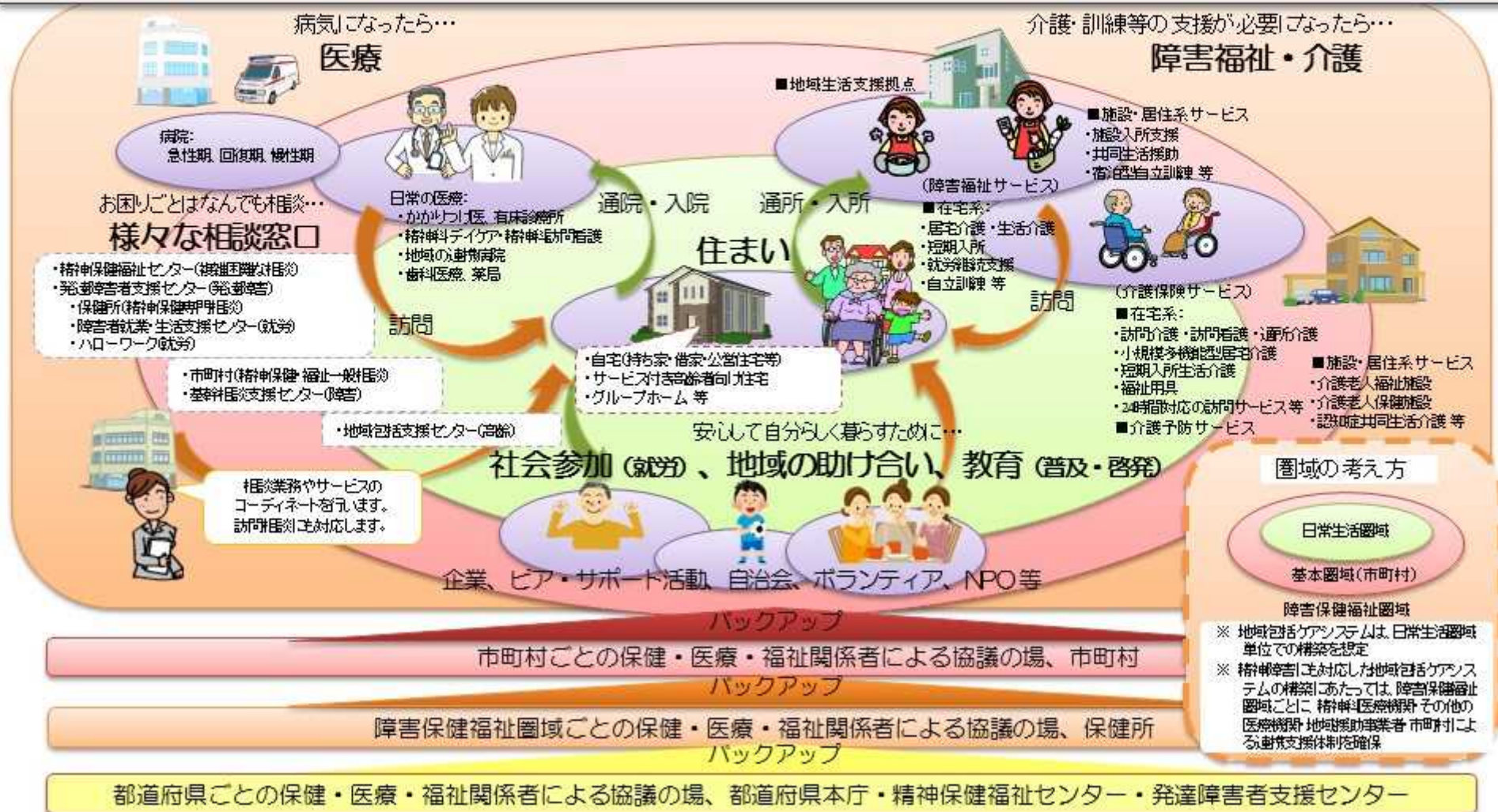
## 1. 申請・通報等の対応機関 空床確保状況

ブロック	精神科病院	平成25年度			平成26年度			平成27年度			平成28年度			平成29年度			平成30年度		
		空床状況			空床状況			空床状況			空床状況			空床状況			空床状況		
		当番日数	空床確保日数	確保率	当番日数	空床確保日数	確保率	当番日数	空床確保日数	確保率	当番日数	空床確保日数	確保率	当番日数	空床確保日数	確保率	当番日数	空床確保日数	確保率
	豊郷病院	102	65	64%	122	42	34%	119	15	13%	126	26	21%	119	84	71%	126	22	17%
A	長浜赤十字 セフィロト 豊郷	365	316	95%	365	285	78%	366	262	72%	365	265	73%	365	330	90%	365	261	72%
B	湖南 水口 滋賀八幡	365	304	83%	365	303	83%	366	341	93%	365	297	81%	365	297	81%	365	318	81%
C	琵琶湖 滋賀里 瀬田川	365	331	91%	365	328	90%	366	339	93%	365	311	85%	365	316	87%	365	298	87%
全県	精神医療センター	365	300	82%	365	312	85%	366	294	80%	365	241	66%	365	302	83%	365	221	61%
合計		1,460	1,251	86%	1,460	1,228	84%	1,464	1,236	84%	1,460	1,114	76%	1,460	1,245	85%	1,460	1,098	75%



# 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築（イメージ）

- 精神障害者が、地域の一員として安心して自分らしい暮らしをすることができるよう、医療、障害福祉・介護、住まい、社会参加(就労)、地域の助け合い、教育が包括的に確保された地域包括ケアシステムの構築を目指す必要がある。
- このような精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築にあたっては、計画的に地域の基盤を整備するとともに、市町村や障害福祉・介護事業者が、精神障害の程度によらず地域生活に関する相談に対応できるように、圏域ごとの保健・医療・福祉関係者による協議の場を通じて、精神科医療機関、その他の医療機関、地域援助事業者、市町村などとの重層的な連携による支援体制を構築していくことが必要。



# 目指す姿 本人が望む地域で望む暮らしを安心して送ることができる

H31 彦根保健所

- 滋賀県保健医療計画
- 滋賀県障害者福祉計画

目標(指標)

- ・1年以上の長期入院患者数の減少
- ・入院後1年時点での退院率の向上
- ・退院後12か月時点での再入院率の低下



## 湖東圏域推進協議会(年1回)

- ・入院中から退院を見越した病院と地域の連携体制の確立
- ・地域移行および地域定着の支援体制の推進
- ・本人の病状や社会性に対応した住まい(GH、施設、アパート)や保健福祉サービスの確保、提供
- ・支援者の質の向上(人材育成)
- ・精神障害に関する正しい知識の普及

## 自立支援協議会/地域移行部会

病院ワーキング

施設ワーキング

個別支援会議

退院支援(地域移行)の  
個別ケース検討(1回/2か月)

課題抽出

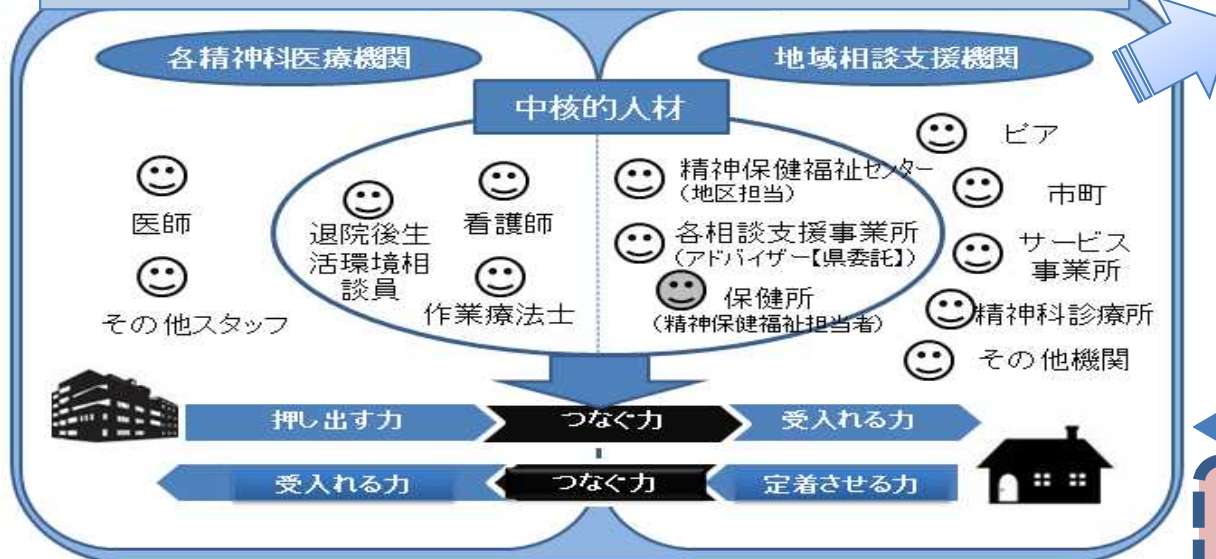
湖東こころのケアチーム研究会(月1回)  
関係機関の地域連携の場  
事例検討、勉強会

## 現状と課題

- ・精神障害者数の増加(神経症性障害、気分感情障害、認知症の割合が増加)
- ・手帳取得者や自立支援医療受給者は、40~64歳代の割合が高い。
- ・H29精神病院における1年以上の入院者数 105人(県911人)、うち65歳未満 47人  
※5年以上の入院患者が約4割を占めている。
- ・H28再入院率(退院後12か月時点) 42%(県32%)

- ・昼間の受皿(就労場所・居場所)、住まい(GH・アパート等)の問題や、親の高齢化により、長期入院を余儀なくされている。
- ・病院のスタッフが、患者が退院した後のイメージがつかみにくい。
- ・病院と地域での支援の実際が両者ともにイメージがつかない。利用できるサービスがわかりにくい

## 滋賀のみんなでつくる地域精神保健医療福祉チーム(中核的人材育成)事業 湖東圏域推進チーム会議(1回/2か月)



## 関係者や地域住民への啓発について(案)

### ねらい

地域医療構想調整会議での議論や、医療機関や関係機関・団体の新たな取り組みについて、関係者や住民に理解を広げる。

各医療機関の専門性や役割、地域包括ケアシステムの推進、在宅医療の体制等について理解を深める。

### 内容

- ・医療機関の機能や役割
- ・医療機関へのかかり方
- ・在宅医療の体制や訪問診療等
- ・在宅や施設での看取り

# 方法

## ① 医療福祉関係者への啓発

ことう地域チームケア研究会 令和元年5月30日

## ② 住民への啓発

- ・各関係機関が住民向けに啓発する機会の活用

《それぞれの機関が》

- ・市町や関係機関の広報誌等の活用

《それぞれの方法で》

- ・住民向けリーフレットの作成

《共通する内容》